高山市立国府小学校

乗鞍登山

本校は、「豊かな心でたくましくやりぬく子」の育成を目指しています。5年生が行う2泊3日の宿泊学習では、今年度はじめて「乗鞍」への登山を計画しました。7月3日、3,000mを超える頂上、剣ケ峰を目指しました。しかし、あいにくまだ雪が残っていたため、無理をせず、約2,900m地点で引き返すことになりました。郷土の自然を実感できる貴重な機会となるとともに、仲間で声をかけ合って登り抜いた、たくましい子どもたちの笑顔で一杯の登山となりました。

2019.11
No.460
初冬号
第71巻3号

11 わが子のあゆみ

［ぎふしりつながらひがししょうがっこう］

岐阜市立長良東小学校

●住　所　〒502-0056
岐阜市長良真生町3丁目9番地
●TEL　058-233-7203
●児童数　688名

〈学校の概要〉

金華山、長良川のほとり、緑豊かに恵みある長良の地に、昭和四十九年に創立し、四十六年目を迎えています。長良川にりりしく泳ぐ鮎のように、子ども同士が心優しく寄せ合って学校生活を送っています。

〈学校の教育理念〉

「啐啄同時」

「啐」は、鳥の雛が、今まさに生まれようとする殻の中から卵を突つくさまを、「啄」はすかさず親鳥が卵の殻をついばんで殻を割るさまを言います。「啐」と「啄」が同時ではじめて雛が生まれるように、子どもの学ぼうとする「まさにその時」、学校職員が教育指導を行っています。

H30年度 創立45周年記念の航空写真

教育理念の「啐啄同時」。教師と児童の気合が一致する教育を行っている。

学校の教育目標

郷土を大切にし、みんなの幸せを願い、個性豊かな自己実現を目指す子

～自主・連帯・創造・実践行動・健康～

学校のたからもの①
「よびかける こたえる」をキーワードに児童も職員も同じ思いで学ぶ

学習場面では、新たな学びに出会い、知的好奇心や興味・関心をもった児童からつぶやかれた願いや考えを教師は受け止め、次の学習への流れを作っています。まさに、ともに学習し、ともに遊び、ともに生活しながらお互いに学び合いをする姿です。児童の主体性や協調性を育み、対話的な学びを実践しています。また、あらゆる教育活動で、何のためにその学習や活動があるのか「めあて」をもち、立ち戻って考えながら進めていることも特色です。「自ら求めみがき合って高まる学習の創造」を目指した研究授業も公開しており、今年度も県内県外の多くの教育関係者が訪れ、児童と教職員の学び合う姿を参観していただいています。

学校のたからもの②
誇りにしている「三つのじまん」

長良東小学校では、「あいさつ・そうじ・せいとん」を三つの柱として、日常生活を意識的によりよいものにしたり、未来ある子どもたちの力を付けたりすることを目的に、全校で取り組んでいます。

●あいさつ（礼儀）：人を大切にします。

人とのかかわりの中で「あいさつ」は相手に気持ちを向けるものであり、よりよい人間関係作りの第一歩です。

あいさつ運動の一場面。元気よく笑顔で一日をスタートさせている。

「みんなのために、人のために」働く意識で掃除をする親子清掃活動。

修学旅行先でも、誰に言われるのでもなく、スリッパをきちんと揃えていた6年生。

正門

はぐるまの大切さを6年生から5年生へ、さらに4年生へと代々、受け継いでいる。

3年生は竹林学習とともに「こよみのよぶね」を時間をかけて制作した。

全校でめざす東っ子スローガン。声と心を合わせて。

●掃除（勤労・奉仕）：場所を大事にします。

自分の使う場所、他の仲間が使う場所、自分が使わない場所を掃除することで、「みんなのために、人のために」働くという経験を積んでいます。

●整頓（公共心・公徳心）：ものを大切にします。

自分の持ち物を、みんなで使うものを大切にすることで、住みよい暮らしを実現していこうと取り組んでいます。整頓することは安全につながり、物の価値を正しく理解できるとともに、心も整います。

学校のたからもの③
学校全体を動かす「はぐるま活動」

児童の自主性、創造性を育むことをねらいとするはぐるま活動（児童会活動）を伝統的に受け継いでいます。連動して全体が動く「はぐるま」のように六年生が軸となり、**「朝はぐるま活動」「ふれあい遊び」「行事を通したなかよしの輪」**の三つの活動を通して、異学年と交流を深めています。年度末には、「はぐるま引き継ぎ式」を行い、上級生から下級生へ、舞台裏の努力や人の営みなど、思いのバトンをつなぐことも大事にしています。

学校のたからもの④
地域を知り、地域とふれあう 長良東コミュニティ・スクール

長良東コミュニティ・スクールでは、家庭や地域が児童を支えながら、児童のよさを伸ばしています。文教地域に位置することから、多方面からの知恵を得ながら取り組むことができています。

一年生は、高齢者の方々、老人クラブの方々から、「昔遊び」を通してよりよく遊ぶための知恵を学んでいます。**二年生**は、地域探検、福祉大会、おいもパーティーなどいろいろな方々との出会いを通してコミュニケーションを育んでいます。**三年生**は、身近な自然を学びます。地域関係者の方にアドバイスをいただきながら、地元の竹と和紙を利用して制作する「こよみのよぶね」は、子どもたちにとって大きなチャレンジです。**四年生**は、青少年育成会の方の力を得て、行燈づくりを行います。キャリア教育を兼ね、地域や自分の未来を語り合い、創造的にメッセージを発信します。**五年生**では、地域のデイサービスや高齢者施設の方々との交流会など、福祉関係の活動をします。**六年生**では、最高学年として歴史博物館や地域の方々に、歴史や主権者教育を学ぶなど様々な活動を展開しています。このように、児童は地域の方々に支えられながら取り組み、体験することで、郷土を大切にする心を育んでいます。

地域探検やたくさんの方とコミュニケーションを育んでいる2年生。秋にはおいもパーティーを行った。

老人クラブのみなさんと昔の遊びを楽しむ1年生。

垂井町立東小学校

［たるいちょうりつひがししょうがっこう］

●住　所　〒503-2112 不破郡垂井町綾戸910番地の1
●TEL　0584-23-2780
●児童数　357名

〈地域の自然や風土〉

垂井町は、濃尾平野の西端に位置し、夏は高温多湿、冬は伊吹山からの「伊吹おろし」とよばれる猛烈な北西の風が吹くなど、厳しい自然環境にあります。縄文・弥生時代の遺跡も多数発見され、校区近辺にもいくつか古墳があります。また、江戸時代には中仙道の宿駅として整備され、美濃路の起点であったことから交通の要衝として発展しました。現在の校区は、主幹道路に近く、大垣市に隣接する地域であることから、商業施設や住宅街が広がっています。

このような厳しくも豊かな自然と歴史ある『ふるさと垂井』に誇りと愛着をもって、東の空から上がる太陽のように、「仲間と自分を輝かせる『光の子』になろう」を合言葉に、一人ひとりが光り輝く学校を目指しています。

校舎

夏休み中の世話

学校の教育目標

光の子　よく考え　手を取り合って　たくましく

学校のたからもの① はるかのひまわり絆プロジェクト

阪神・淡路大震災により、当時小学六年生であった加藤はるかさんが、神戸市の自宅で亡くなりました。震災から半年後の夏、はるかさんの自宅の跡地に、たくさんのひまわりが咲き、それは、震災の記憶と復興を語り継ぐシンボルとなりました。

平成二十八年度当時の東小六年生が、熊本地震に被災した方々を励ましそうと、熊本県の嘉島町立嘉島西小学校の子たちと交流を始めました。私たちのメッセージのお礼として送られてきたのが、この「はるかのひまわり」の種でした。その種を毎年六年生が引き継いで、「希望のひまわり」として育てています。昨年、今年と酷暑や台風にみまわれた夏でしたが、それでも、私たちのひまわりはたくましく、しっかりと種をつくってくれました。

その種を毎年十二月の青少年健全育成地区民大会の時に、垂井の町中に広がるようにと、保護者や地域の方に配布しています。

はるかのひまわり

ひまわりの種を地域に配布

松坂おどりを学ぶ

黙々と取り組む掃除

そうじ名人の掲示

6年生が一緒に掃除

学校のたからもの② 東小クリーンタイム（掃除の時間）

以前の東小学校では、昼休みに遊んでいた子たちが遅れて掃除時間に間に合わなかったり、掃除中にケガがあったりするなど、ざわついた中での掃除でした。

そこで、一昨年度から担当場所を美しくするために、取り組み方の見直しをしました。特にこだわったのは、落ち着いて掃除の時間をむかえて、スタートをそろえることでした。そして、そのまま一言も声を出さずに「だまって掃除」を始めました。四月当初は、新一年生たちはなかなかなじめず、つい、大声を出してしまいます。そこで六年生が一年生教室に行って一緒に活動し、自ら手本を示します。今では、どの掃除場所も「だまって掃除」が当たり前になってきました。

本年度は、他の掃除場所のがんばりや熱心に取り組んでいる子たちを昼の放送や掲示により紹介し、さらにより良い掃除の姿を目指しています。

学校のたからもの③ 地域とつながるPTA

本校のPTAは、保護者も教職員も地域も笑顔になれるような活動を目指しています。地元のまちづくり協議会主催の「夏祭り」「東地区民大会」「チャレンジ教室」などへの協力を通じて子どもの笑顔づくりと地域とのつながりを大切にすることで、子どもの安全・安心を守ることを推進しています。「夏祭り」では模擬店の出店、「東地区民大会」では防災教室の実施に協力して、親子のふれあいと地域とのつながりを大切にする機会をつくっています。また、土曜授業日で共催している、地域の方を講師とした体験講座「チャレンジ教室」では、年配の方とのグラウンドゴルフや「松坂おどり」といった伝統的な踊りなどを教えてもらい、PTAとも協力しながら、ふるさと垂井に誇りと愛着がもてる子どもたちを育んでいます。

グラウンドゴルフ

[ときしりついずみしょうがっこう]

土岐市立泉小学校

●住　所　〒509-5104
土岐市泉中窯町1丁目5番地
●TEL　0572-54-2195
●児童数　674名

〈地域の自然や風土〉

日本有数の焼き物の町として知られる土岐市にあり、緩やかな南下りの丘陵地で閑静な住宅街に建っています。国道や高速道路のIC・JR土岐市駅にも隣接しており、交通の便も良い地域です。

学校の歴史は古く、明治六年開校、昨年度創立一三〇年を迎えました。現在の校舎は、平成十八年に完成しました。学校で使用する一部の電力に太陽光発電や風力発電を利用していたり、移動パネルや家具によって普通教室の大きさを調整できるようになっていたりしており、当時、建築関係の賞をいくつか受賞しています。

校舎

学校の教育目標

考えやりぬく子
思いやりのある子
じょうぶな子

学校のたからもの①
卒業生から引き継いだ意識や活動に磨きをかける

毎年、卒業式前に全校で行う「六年生を送る会」の中で、最高学年として六年生が意識して取り組み、たからものとなった姿や活動について、下級生へ引き継ぐセレモニーを行います。平成三十年度は「挨拶」「掃除」「朝ランニング」「配膳」について、仲間と知恵を出し合い、さらによりよいものへと磨きをかけて欲しいとの意志を引き継ぎました。

五・六年生が所属する委員会を中心に、アイディアを出し合いながら具体的な取り組みを考え、全校で活動しています。「いつでも・どこでも・誰にでも・気持ちのよいあいさつ」「すみずみまで・時間いっぱい・黙って掃除」「毎朝・誘い合って朝ラン」「素早く・仲間と協力して十分配膳」を合言葉に頑張っています。

また、「合唱」も泉小学校の伝統の一つで、六年生は、毎年二学期末に「泉っコンサート」を開催し、全校に向けて自慢の歌声を披露しています。

送る会 伝統の継承

学校のたからもの②
他者意識を大切にし、思いやりの心を育む交流活動

一年生と六年生、二年生と五年生、三年生と四年生がそれぞれペア学年となり、定期的に交流活動を行っています。特に毎日行っている掃除は、三年生と四年生以外はペアで行っており、高学年が低学年の横に並んで一緒に雑巾をかけたり、箒で掃いたりしています。

また、月に一回、朝の活動の時間を使って、ペア遊びを行っています。低学年が楽しく遊ぶことができるように、内容やルールを工夫しながら準備を進める経験は、相手を意識した優しい言動につながっています。

図書委員会主催の図書館祭りや読書週間には、ペア読書も行います。自分のお気に入りの本を、開いて見せながら読み聞かせをする高学年にぴったりくっついて挿絵をのぞき込む低学年の姿が、何ともほほえましいです。

ペア交流以外にも、二年生が入学したばかりの一年生と一緒に学校探検をしながら、校内を案内したり、一年生が、年間を通して、隣接する附属幼稚園の園児を招待して交流活動を行ったりもしています。いつもは、高学年にお世話になってばかりの一年生や二年生も、この時ばかりは張り切って、お兄さんお姉さんぶりを発揮しています。

ペア掃除

ペア読書

4年生 音楽劇

ペア遊び（じゃんけん列車）

3年生 ランプシェードづくり

5年生 名人学習

学校のたからもの③
地域教材を生かした「はなのき学習」

泉小学校では、総合的な学習の時間を「はなのき学習」（学校の近くに自生する天然記念物「ハナノキ」に由来）として、地域の「ひと」・「もの」・「伝統」などを題材に、地域の方の力をお借りしながら次のように取り組んでいます。

三年生

「泉のひみつを調べよう」をテーマに、地場産業である「陶器づくり」について、窯元探検に出かけ、窯元で陶器づくりの工程を見学したり、質問をしたりして取材を進める一方、工業組合の方の指導のもと、ランプシェードづくりを体験しています。

四年生

「泉のお宝発見隊」をテーマに、泉町の歴史や泉町に古くから伝わる昔ばなしについて調べ、自分たちが生まれ育ったまちについて理解を深めています。また、泉町に伝わる話の内容をもとに作られた音楽劇を練習し、全校集会や土岐市の音楽会で発表しています。

五年生

「地域に学ぶ・人に学ぶ名人学習」をテーマに、地域で活躍しておられる「名人」の技術や思いについて取材したり、実際に体験したりしています。

六年生

「地域と人とつながる泉っ子」をテーマに、福祉の視点で町や施設を調べたり、疑似体験をしたりしたことをもとに、周りの人とのかかわり方について考え、実際に施設訪問をして、そこでの交流に生かしています。

6年生 泉っコンサート

［かかみがはらしりつさくらがおかちゅうがっこう］

各務原市立桜丘中学校

●住　所　〒504-0838
各務原市那加不動丘1丁目77番地
●TEL　058-389-2131
●生徒数　463名

〈地域の自然や風土〉

生徒一人ひとりが、志をもって生き生きと生活し、社会の中でよりよく生きていくための汎用性の高い基礎学力を身に付けられるよう、学校、地域、家庭が協力して生徒の育成を進めています。この四月から各務原市教育委員会の指定を受け、校区の二小学校（那加第二小・尾崎小）と共に桜丘中学校区コミュニティ・スクールとなりました。

開校時に、淡墨桜がシンボルツリーとして植えられ、三十四年たった今も、春になると満開の花びらで生徒たちを迎えてくれます。学校の西を北南に流れる新境川も桜の名所であり、桜丘中学校の名の通り、桜の樹に囲まれた学校です。

淡墨桜越しの校舎

学校の教育目標

志をもって生きる
常に自分を高める生徒『向上』
ルールやマナーを守る生徒『礼節』
感謝と思いやりの心をもつ生徒『思いやり』

学校のたからもの①

桜こみゅ

平成二十五年度まで「地区懇談会」という名称で開催されていた学校と保護者の意見交流会。平成二十六年度から「桜コミュニティ広場 ワイワイ座談会」と変更され、今では「桜こみゅ」の名称で、PTAが主催する研修行事となっています。参加者は六十名ほどです。

当日は、七つのブースを設けました。それぞれのブースでは、子育てに関わるテーマと担当の先生が決まっており、その先生を交えて、意見交流をしました。昨年度は、子育てについて、思春期のメンタルケアについて、受験について、我慢をさせる子育てについてなどがテーマでした。また、校区の喫茶店の協力を得て、ケータリングをしていただきました。本格的なコーヒーなどを飲み、おいしいケーキを食べながら、参加者は興味のあるブースで、各ブースのテーマにそって、意見交流という名の「おしゃべり」をしました。一つのブースの滞在時間は、二十分。時間が来たら、また別のブースへ移動します。移動は二回あるので、トータル三つのブースでおしゃべりしました。

桜こみゅ 校長挨拶

桜こみゅ 会場の様子

生徒の登校時に生徒玄関前で募金活動

PTA本部役員と学校長、生徒会執行部による
ランチミーティング

自分のお小遣いから募金した生徒

桜丘中学校区コミュニティ・スクール
マスコットキャラクター「すずみん」

校区の小学校の保護者の方も参加され、「中学校のことがよくわかった」「いろんなお母さんの意見も聞け、有意義だった」との声も聞かれました。

学校のたからもの②

ランチミーティング

毎年、PTA本部役員と学校長、生徒会執行部の生徒が、共に給食を食べながら、桜丘中学校について語り合う、ランチミーティングを行っています。今年度も、最初は自己紹介から始まりましたが、徐々に緊張がとけ、様々な話題で盛り上がりました。特に、水泳時の女子更衣室は床がコンクリートで、着替えづらいことが分かり、早速PTA会計で「すのこ」を購入、設置しました。またコミュニティ・スクールも動き出しているので生徒会執行部から「すずみん」のイラスト入り幟旗が欲しいとのリクエストがありました。

学校のたからもの③

ボランティア活動

桜丘中学校生徒会は、伝統としてボランティア活動に力を入れています。海外の困っている方のために役立てようと、書き損じはがきを全校から集めたり、リサイクル資源とするために、エコキャップを集めたりしています。また、今年度は、使い捨てコンタクトレンズの空ケースの回収もしています。これは、回収したケースをリサイクルメーカーが再資源化し、その対価を財団法人日本アイバンク協会に寄付するというものです。また、高齢者宅訪問も行い、地域の高齢者のお宅へ生徒がお邪魔し、庭の草引きやお風呂掃除などをさせていただいています。

昨年度は、大雨で氾濫した津保川流域の関市上之保地区へ向けた募金を、生徒会とPTAが協働して行いました。これは、昨年度七月に行ったランチミーティングで、「同じ川の近くにある学校として、何かしないわけにはいかない」と、急遽決まったことでした。二日間という短い期間でしたが多くのお金が集まりました。

集まったお金は、直接関市長さんにお渡しすることができました。

このように、桜丘中学校のたからものは、伝統としてボランティア活動に力を入れていることと、生徒会役員とPTA本部役員のランチミーティングを始め、みんなで話し合って、よりよい桜丘中学校を創っていこうとする文化があることです。

PTA役員も募金を呼びかけ

山県市立桜尾小学校　PTA会長
鈴木 雄一朗

わが家の宝物

わが家の宝物は、子どもたちが大好きな野球です。

わが家は中学三年生の息子と小学六年生の娘がいます。平日はそれぞれに習い事や塾があり、土日は二人とも野球をやっているので、なかなか家族で揃って過ごす時間が取れません。しかし野球の事になると別です。お互い少しでも時間を作って、二人で野球の練習をしたり、試合があると家族全員で応援に出掛けたりします。子どもたちの頑張りをみる事は、私達夫婦にとってかけがえのない時間です。野球を通じて家族の繋がりを感じています。

だんだん家族で一緒に過ごす事が難しくなってくると思いますが、家族で過ごす時間を大切に、子どもたちの事を陰ながら応援していきたいと思います。

リレーエッセイ 8

岐阜県PTA連合会　母親代表
横井 由美子

PTA役員への思い

私は長男が小学校に入学してから現在までの九年間、縁あってPTA役員を務めさせていただいています。PTA役員と言えば尻込みされる方もみえるかもしれませんが、私の「PTA役員への思い」をお話したいと思います。

第一子に長男を出産し、慣れない初めての育児に奮闘する中、一才児健診で脚の疾患を指摘されました。当時の私は、どの子も当たり前のように成長していくものだと考えていた為、それはとてもショックな出来事で、病院からの帰り道に車で大泣きしたことを今も覚えています。診断された病名をネットで検索しては病気のことばかりを考え不安でしたが、同じ病気をもった子どもを育てる方のブログや、病院の医師や看護師さん、幼児サークルの仲間、親や家族や友人等、たくさんの方に励まされ、また同じ病院に通う母親との情報交換が支えになりました。

その長男ですが、両脚に装具をつける治療を二年間程続けたところ、医者も不思議がる回復ぶりで幼稚園に通う頃には完治し、中学生になった現在までに水泳、サッカー、陸上競技と様々なスポーツにも取り組むことができました。診断を受けた当時は不安ばかりで泣いていた私でしたが、脚の心配がなくなった今は今で、子どもの不規則になりがちな生活習慣や成績を心配し、日々悩みが尽きることはありません。結局、親はどんな状況にあっても子どものことで常に悩んだり、心配したりすることがあるのだと改めて思いました。

子どもは一人ひとり違うし、育つ環境も様々です。そしてその分だけ、親の悩みも多様化します。私が悩んでいた時期に支えてくれ、励ましてくれた方たちの様に、今度は子育てに悩む親の心が少しでも軽くなるような、子どもたちの健やかな成長を後押しできるような、情報提供や発信をしていけたらいいなと思う気持ちでPTA役員をしています。そして、志を共にする素晴らしい役員の仲間や会員の皆さま、学校の先生、地域の方々に、私自身も成長させてもらっています。

次回は… 駄知中学校　水野 裕貴さん

わが子のあゆみ
2019.11 No.460 初冬号

もくじ

表紙　高山市立国府小学校
1 学校のたからもの　岐阜市立長良東小学校／垂井町立東小学校／土岐市立泉小学校／各務原市立桜丘中学校
9 わが家の宝物　鈴木 雄一朗
10 リレーエッセイ⑧　横井 由美子
11 特集　第四十回 岐阜県PTA連合会 定期大会 記念講演「こころ元気な大人が、子どもの未来を築く！～豊かな心を育むコミュニケーション～」後編　こころ元気研究所 所長 鎌田 敏 さん
17 家庭教育応援団！㊳　岐阜県環境生活部環境生活政策課
19 「多様性尊重の教育⑬」みんな、いっしょに　安田 和夫
21 保健室ノート　小西 加奈
23 私の先生㊳　新井 洋太
25 子育て半生記　永井 浩司
27 楽しい読み聞かせ⑦　八百津町立久田見小学校PTA
29 親の背中②　片田 亜由美・長原 有紀
31 私が出会った1冊の本【続43】　米田 伸江・加納 和貴
33 話そう！語ろう！わが家の約束　瑞浪市立明世小学校PTA・森 芳
34 親子ではてな
35 子の思い　外薗 優亜・草間 智咲・児山 月渚
親の願い　田中 康博・佐合 英巳
教育の窓　伊藤 博章・杉山 正高
41 先生！ありがとう！　保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ
42 お試しクッキング　岐阜県学校栄養士会
43 ふるさとの伝承　大垣市立牧田小学校
45 きらり！キッズ！　多治見市立滝呂小学校
47 夢中！熱中！我らが部活　各務原市立中央中学校
49 私たちのPTA　岐阜市立島小学校PTA

機関誌「わが子のあゆみ」
令和元年度　初冬号
第71巻3号　通巻460号
発行／令和元年11月1日　岐阜県PTA連合会
〒500-8816　岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内
電話／058(262)3257
FAX／058(262)3259
Eメール／info@g-pta.com
ホームページ／http://www.g-pta.com
編集／岐阜県PTA連合会広報委員会
「わが子のあゆみ」編集部
印刷／サンメッセ株式会社

特集

第四十回 岐阜県PTA連合会 定期大会

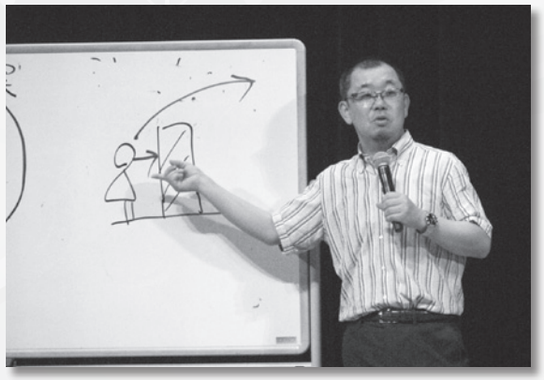
記念講演

「こころ元気な大人が、子どもの未来を築く！～豊かな心を育むコミュニケーション～」後編

こころ元気研究所 所長
鎌田 敏 さん

望ましい姿をイメージさせる

よく病院とか看護師さんとかの研修とかに行くことも多くて、その時に、リハビリ中の患者さんがいるとするでしょ。一所懸命歩けるようになるために、トレーニングしてるわけですよ。その時に、看護師さんとか療法士の方にね、「○○さん、足の具合はどうですか？」って、その人の目の前の壁、越えていかなあかん壁のコミュニケーション、これも大切です。今の状況を知るためのコミュニケーションも大切なんですけど、僕がよくお願いしてるのは、「○○さん、歩けるようになったら、誰に会いに行きたい？何食べに行きたい？どこに行ってみたい？」って、その人の取り組んでいる壁の向こう側をイメージしてもらうというコミュニケーション。どっちの方が心のエネルギーが上がって、リハビリに熱心に取り組んでいるかというと、やっぱこっちちゃいますか？「これこれのために」、そういうことでいきますと、子どもたちに対してもですね、今、子どもたちがいろいろと取り組んでいることもあるわけじゃないですか、勉強であったり、スポーツであったり、いろんなことに取り組んでいる。その取り組んでいることについての「どう？調子は」というコミュニケーションも大切かもしれませんけど、それを乗り越えた、その壁の向こう側と言いましょうかね。そこにはどんな自分が待ってるか、そういうものをイメージさせてあげるような、まだ見たことのない自分と出会っていくと言いましょうかね。望ましい姿ですよ。どんなふうな自分と出会いたいかってね。その質問の仕方も人それぞれだろうと思いますけど、望ましい姿をイメージさせてあげる。そうすると、車のナビと同じように、脳の中にナビゲーションシステムみたいなものがあるんですよね、そっち側にハンドル切って行きますもんね。なので、僕ら親とか先生方とか、大人というのは、自分自身においてもそうですけど、子どもたちに対しても望ましい未来に対してもね、具体的にイメージができるような、そういうサポートしていくというのも、僕らにとって、大切なことの一つなんじゃないかなっていうふうに、僕自身を振り返ってみて思うわけなんですね。

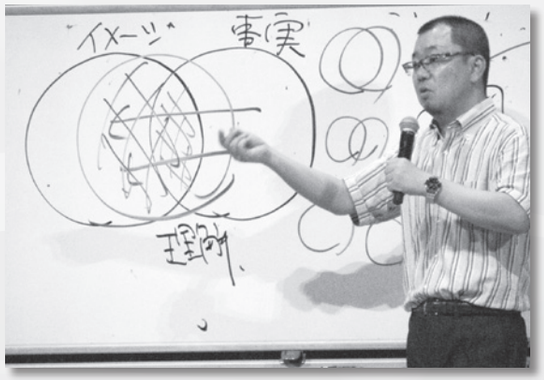


コミュニケーションの本質（思い込みを減らし、理解を増やす）

僕らは、人のことをイメージしています。「うちの子、今こういう状態とちゃうかな？」とかね、イメージする。これは、僕らの思い込みとか、先入観です。

うちの子はこういう子やって思い描いていてるイメージと事実が一致するなんてあり得ないですよね。ですが、挨拶の教えの深いところは、挨拶とは、歩み寄るキャッチボールやと言いました。重なりが生まれてきます。こっちは、僕らの思い込みとか先入観、時には偏見というのもあるかもしれません。こっちは、知らない部分ですから、未知の部分です。重なり合う理解とか、今日の話し合いのように、「あー素敵やな」って、「それってすごくいいことやと思う、私も見習おう」とか、「私と一緒一緒、それ大切だね」って、重なりが生まれてくるわけですよね。いつもコミュニケーションされている同じPTAさん同士とかね、仲間同士でも、「あれ、この人のこんな話初めて聞いたわ」、そういうのもあったかもしれません。挨拶の教えの深い所は、キャッチボールすればするほど、円がこっちに移動していくんですよね。重なりが大きくなっていきます。理解とか共感とか。いかに、ここを大きくしていくかというのがコミュニケーションの本質ですよね。

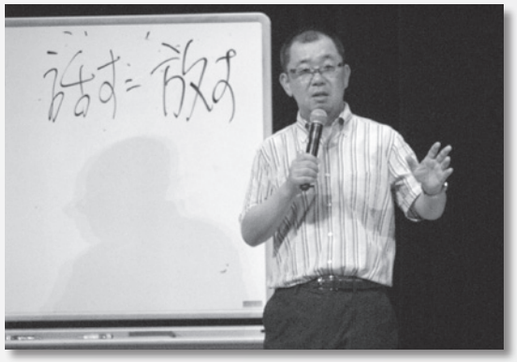
よく家族の絆、夫婦の絆、職場の絆。絆って、よく言いますけども、絆って絵にすることはできませんけども、もしかしたら、○と○がガチっとなってる、話し合ったり聞き合ったり、協力し合ったり、相談し合ったり、何々し合うことで、ここが深まっていくんでしょうね。PTAさん同士の絆だって、話し合ったり聞き合ったり、時にはぶつかり合うことがあっても、何々し合うからこそ、お互い理解し合える。こう思うわけなんですね。



「話す」は「放す」に通じる

現代社会はですね、鬱とかなんかでもそうですけど、脳というコンピュータのトラブルって言いましょうかね。ほんとに、ゆとり、間が少なくなっていると言いましょうか、人に振り

回されている時間がめちゃめちゃ多くなってるんですよね。子どもの頃、皆さんどうでしょうかね。学校が終わって、友達との時間とか、クラブ活動が終わって家に帰ったら、自分の時間、家族の時間、兄弟の時間しかなかったのが、今やったら、例えば、ラインとかでね、寝ててもね、言葉の流れの中でね、ほんとは違うのに、文脈読み間違えて、勝手にイメージしちゃって、「あれ、私ってもしかして、みんなからいじめられてるの？」って、勝手に思い描いちゃって、夜中悶々としてるとかね。振り回されている時間がすごく多い。脳が疲れやすい時代になっていることは間違いないですね。脳が疲れやすい。だから、僕は、いかに脳を休ませてあげるかっていうのがすごく大切やなと思うんです。子どもたちの育成にとってもですね。脳の予防、メンタル不調を抑える意味でもですね。車とか機械とかでも、きっちりメンテナンスするからいつも通りの動きするのと同じなんですよ。脳だってメンテナンスが必要なんですよね。で、一番は、睡眠です。



もう一つは、ボーッとする時間がめちゃくちゃ大切なんですよね。釣りとかしながら、ボーッとするなんて、すごくいいことじゃないですか。何故かと言うと、脳というのは、ボーッとしている時こそ、デフォルトモードネットワークなんて言うんですけど、そういう時にこそ、脳の活力を生み出す、脳をメンテナンスしてくれる領域があるらしいんですね。だから、常にフル回転してて、情報にも触れてますから、ものすごく疲れやすい。だからこそ、ボーッとする時間が大切なんです。小さなお子さんの子育て真っ最中のママとかなんか特にね、洞窟願望っていう願望があります。「私一人だけの時間がほしい」とかね、そういうのあったりするんですね。それだって脳が求めているんですよ。ボーッとする時間をね。

もう一つは、人に話をする。よく愚痴をこぼすっていう動詞があるくらいですから、こぼれるくらいやったら、こぼした方がいい時もあるんですよ。我慢しすぎて余計しんどくなるのも良くないから。話すは、放すに通じるんですよね。「話を聞いてくれてありがとう。すっとしたわ」って。でも、これが成り立つためには何が必要かって言うと、自分のその話を聞いてくれる人がいてるかどうかっていうのが大切になってくるんですね。

心のサポーター

だから、さっきの傾聴の生みの親でもあります、カウンセリングの神様で、ロジャースさんっていう方がみえます。学校の先生方でしたら、エンカウンターなんかの生みの親でもあるね。ロジャースさんがこんなこと言っているわけですよ。「この世の中はいろいろあるな。うれしいこともいっぱいあるけど、しんどいこともめっちゃいっぱいあるな」で、しんどいことについてこう言われた。「でもな、そんな世の中でも、たった一人でもええんちゃう？自分のことを理解してくれるような人の存在。或いは、自分の気持ちに寄り添ってくれるような人の存在。自分の話を最後まで分かろうとして聞いてくれる。そういう人がたった一人でもいるだけで、人はまた明日から頑張れる」って、こう言いはったんですね。少なくとも子どもたちにとって、親は、先生はやっぱりそういう存在であるわけですし、夫婦だってお互いそうです。

で、僕はそういう存在のことを「心のサポーター」って呼んでるんです。勿論、皆さんはその子どもたちの、心身のいろんな意味でのサポーターなんですけど、また皆さんにとってのサポーター、心のサポーターの存在もまた大切ですよね。夫婦であったり友達であったりね、PTAの関係、つながりですとかね、何でも話し合える、聞き合える、そういう関係性って大切やなって思うわけなんですね。

元気は出てくるもの

人は、いくつになってもそうじゃないですか、褒められたり、或いは、ありがとうねって感謝されたりとか。よく、「ありがとうって言いましょう」って言いますけど、ありがとうって言われる生き方も大切やなって思うんですよね。「あー良かったな」って、こんなことで、また笑顔になっていくとか。

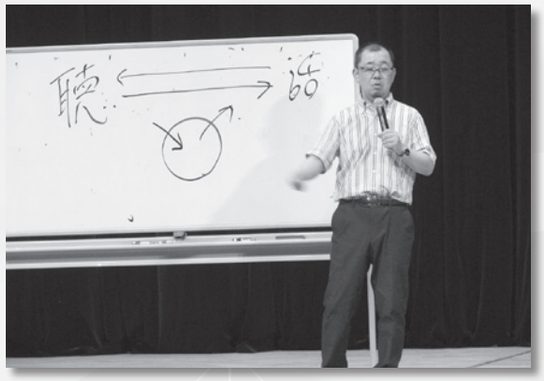
小さなお子さんとかに、こんなこと伝える時もあるんですよ。「ありがとうって、一日三回言うんやったら、ありがとうって、三回言われてみーひんか」みたいなこと言うんですよ。小さなお子さんやったら、これ、ゲーム感覚で捉える子だっているんですよ。何か手伝ってね、「ありがとうね」って言われたら、「ありがとう一つゲット！ヤッホー」って、「ポイント一つゲット！」って、ゲーム感覚でも最初はいいと思うんです。とっかかりはそれでも。何故かというと、何か自分が手伝えることないかなってアンテナ立ってます。そして、声を掛けてます、自分自ら。そして、何か手伝えることを探して手伝おうとしてます、行動に移してます。その時に、「あっ、坊ちゃんありがとうね」、「○ちゃん、ありがとうね」って言われたその時の、何か心地良さ、心のぬくもりと言いましょうかね。その学びの方がすごく大切なんちゃうかなって。きっと心のエネルギー上ってると思うんですね。頑張れって言葉も大切なんですけれども、頑張ってたら、「よー頑張ってはるね」って。夫婦同士でもそうですよね、ねぎらいの言葉を掛け合うとでも言いましょうかね。「いつも、よーありがとうね。頑張ってるね」って。ねぎらいの言葉って、励まし言葉ちゃうかな思うんですよね、頑張れ以上の。

「あー、僕のことよー見ててくれるな」って。こう、グーッとエネルギー上ってきて、元気って出てくるものなんですね。普通、元気って言うと、「元気を出そうとか、元気を出せ」、或いは「出していこう」って、八方から来ます。でも、いつでもみんなが、じゃ、それで出し続けるかっていうと、そんなわけいかないですよ。僕も心元気って言ってますけど、そんなふうにはいかないです。元気がない時は悪いかというと、そうじゃないと思いますよ。こう、山から見る景色と谷から見る景色全然違いますから、すべてに学びがあると思うんですよね。悩んだ時があるからこそ、今同じように悩んでいる人の気持ちに寄り添えたりとか、すべてに意味があると思っているんです。元気は出すだけじゃなくて、いい人間関係とかコミュニケーションとか、心のサポーターといった存在の中からグーッとエネルギーが上がってきて、出てくるものなんですね。出すだけじゃなくて、出てくるものなんです。

心の居場所づくり

子どもたち、お子さんとのね、コミュニケーション通じて、自然と、つらかったけどエネルギーもらったという体験たくさんあると思うんですね。

人はどこかに所属しています。家族の一員に所属していたり、会社に所属していたり、地域・社会の一員に所属している。でも、そこに心の居場所がなかったらどうでしょう。今日もいろんなニュースやお話の中にありましたね。悲しいニュース、虐待とかも本当に切なくなるじゃないですか。思わずチャンネル変えてしまうようなね。本当に、子どもたちにとって、親を



選べないわけじゃないですか。その時にね、家族の一員として所属しているかもしれませんけど、そこに心の居場所なんてなかったわけじゃないですか。だから、僕は、大人にとっても子どもたちにとっても一番大切なことって何やろかって言ったときに、心の居場所づくりって大切なんやろな、所属しているだけじゃなくて、そこに、心の居場所があるっていうこと。さっきの重なり、お互いの「理解」を多くしていくことで、元気や笑顔が出てくる、それが大切やなって思ってます。

日常の明るい出来事を子どもに語ろう

丸を二つ書かせてもらいます。これ、よくある心理学の問い掛けなんです。ご存じの方もあると思います。これも、そこにある日の丸のような満月のような○やと思ってください。皆さん、どっちの○が気になりますでしょうか。「何で、ここ空いてるねん」って話になるわけですよ。だから、よく、ドーナツに例えたりするんですよね。「誰？私のドーナツかじったの誰？」って、ここに目が行くわけじゃないですか。欠点探しがうまいっていうのはそういうことで、別にそれが悪いわけじゃないですよ。学校の校舎のガラスが一枚だけひびが入っていたら、そこに目が行くじゃないですか。それは当然ことですが、ここばっかりでも良くないなっていうのは、ここばっかり言ってると、できないことに、できていないことばっかりに目がいったりとかするかもしれないですね。だから、僕らもうちょっと物の見方変えて、「まだこんだけ食べれる部分もあるやん」みたいな、ちょっとしたことの、いいところ探し、そっちを見つめる目っていうのもやっぱ大切にしたいなと思うわけなんですね。例えば、子どもたちがいる前でね、親がね食卓で、ご飯でも食べながら、学校の先生の悪口を言ってたとするでしょ、「あの先生はって」、ほならね、子どもたちだって同じような所に目が行くんですよ。大人同士の会話でも、こういうこと言ってると「えっ、そういう人なの」って、同じところに目がいっちゃうんです。僕たちというのは、欠点探しがうまいんで、ついぽろっと、僕もそうです、こういう話題をしてしまうことがあるんですよ。けれど、ふと立ち止まって、明るいことを話題にすることを大切にしたいですね。明るい話題が明るい話題を引き出していきますもんね。

「明るい社会」とは

そういうことで言いますと、青少年の育成大会とかで、よく「明るい社会」とかって言うじゃないですか。じゃ皆さん、明るい社会ってどんな社会をイメージされてます？これ皆さん、勿論一〇〇人いれば、一〇〇通りいろいろあろうかと思うんです。すべて尊いことだと思うんですが、こういうのもあると思うんですよ。

明るい社会というのは、子どもたちは地域の宝ですから、子どもたちが大人の世界に夢を描ける社会と言いましょうかね。こんな人になりたいな、こんな大人になってみたいなと思われるような社会っていうのも明るい社会の一つの形かなと思ったりするんですよね。子どもたちの前で、大人の世界ってこんなおもろいでっていう方を話題にする。「今日こんなことがあってな、おとうちゃん…」みたいなね。こっちを話題にするっていうのもすごい大切ちゃうかな、こっちを見つめる、いいところ探しの目っていうのを大切にしたいなということ思うわけでございます。で、大人の世界もええもんやなっと思えるような話題ということですね。

子どもは見ている大人の背中

三番目に大人の背中・子どもの未来って書いてますけど、これ何かといいますとね、僕、移動が多いんでよく感じるんですよ。新幹線とか特急に乗っても在来線に乗っても、途中で降りて行かれる方がね、リクライニング倒したままとかね、ペットボトルも置いたままとかね。こういうのよくあるじゃないですか。よく新幹線の中でもね、大人の我々に向かって、車内アナウンスで、「リクライニングシートは、降りられる際は、元に戻しておいてください」って、大人の我々に指示を出しているんですね。ほんの、ピッてやるだけのことなのに、在来線に乗ってもそうですよ、駅で、カラカラカラって缶コーヒーがころがって来たりとかね、時々、リポビタンDとか置いてある時があるんですよね。わぁー疲れとったんやろなと思うんですけどね。クイーッて飲み干して元気出たんやったら、それくらい持てよと、思うわけなんですよね。あれは何かというと、誰かが捨ててくれるやろって思ってるからでしょうね。でも、それだって子どもたち見ているわけなんですよね。例えば、思いやりの心って言った時にですね、それ言葉で伝えることも大切なんですけど、たまに、レストランとか行って食事した時に、小さなお子さんとかが汚してしまうこともありますね。そしたら、次に座る人のために、まっ、お金払ってるから、従業員がきれいにするからええやんっていうのじゃなくて、拭いたりですとかね、次の人が座るために、がちゃがちゃにするじゃなくて、椅子をちょっと元に戻しておくとか。完ぺきとは言えませんけどね、ほんの数秒のことじゃないですか。それを見て、子どもたちも同じようなことやる。履物揃えるとかね、そういうのを大人たちがやってる。それを子どもたちも見様見真似で、小さなお子さんとか特にやっていくんです。

習い性となる（習慣が性格をつくる）

性格っていうのは、持って生まれたものっていうのもあるんですけど、もっと大きな影響を与えるのは、習慣であったり、育った環境であったりとかするわけなんですよね。「習い性となる」習慣が性格を作っていくんです。習慣は第二の天性って。だから、そういう行動を通して、他者への思いやりって育まれていくんやろなーって思うんですね。だから、少し立ち止まるって、今日のキーワードにさせてもらってますけど、自分自身の背中って見られてますもんね。じゃ、お前は立派な背中なんか言われたら、僕も全然あかん部分もいっぱいあるなって、感じる時があるんですよね。でも、そんな背中を見られていることを意識しているかしてないか、それだけでも全然違うだろうなと思いますし、子どもたちのいい習慣につながっていくようなね、そんな背中でありたいなということを意識しているかしてないかだけでも、違ってくるのかなって言うことでね。意識してるからこそできるっていうことがありますんで、意識するっていうことは大切やなって、素直にそんな背中でありたいなって、思うわけなんですね。

レッツのコミュニケーションで巻き込もう

最後に、皆さんご起立していただけますでしょうか。そしてですね。ちょっとご近所の方と四～五人くらいでいいです。横一列で手をつないでいただけたらと思うんです。今から何をやるかというと、ぎゅっと握りあってるのが絆です。丸と丸が重なった絆、チームです。今からその場で軽くジャンプしていただこうと思います。手をつないでいる仲間同士、ぎゅっと丸が重なった絆同士が軽くジャンプです。息を合わせていいですか？せーの、はい、いいジャンプです。さすが国際会議場、耐震ばっちりです。じゃ今度、僕は何の合図も出しません。先ほどと同じように、できるだけおんなじタイミングで、ジャンプしていただけたらと思います。じゃあ、お好きなよーに。

あっ、素晴らしい。はい、拍手でどうぞ、席にお座りください。ありがとうございます。これね、もうお分かりやと思いますけど、最初のジャンプに比べるとバラバラなんですよ後の方が。でもやっぱり皆さんね、PTAで率先して活動されている皆さんですからね、早かったです、すごい。これ、お分かりやと思うんです。誰かが動いているんですよ。こう、「ピクッ」ってくると、これも手をつなぐこともコミュニケーションですから…。「あっ、行く」って。だいたいね、どっかが跳ぶと、後ろも芋づる式に跳び始めたりするんですね。視界に入るというか、跳ぶ空気に変わるんですよ。空気を感じるんです。だから、アクションを起こすから変化が起きるわけじゃないですか。社員研修なんかで、指示待ち族とかよく言いますけど、「おい、誰か指示出してくれよ。早く誰か合図出してくれよ」って、いつまでたってもジャンプできないこともあるんですよ。

でも、誰かがアクションを起こすから変化が生まれるっていうことで、ぜひこれからのPTA様の活動でも、こういうコミュニケーション、「レッツ」のコミュニケーション大切にしていただいて、「さー、こういうこと大切にしていこう」「こういうことしていこう」と、レッツの続きは、君たちが、あなたたちがやりなさいじゃないですもんね。レッツはウィー（私たち）ですもんね。

ぜひ、まわりを今みたいに巻き込むような空気を作っていただく、皆さんのその素晴らしいアクション、行動でですね、子どもたちの未来へ向けて、素敵な空気を作っていただけたらなと思っております。

家庭教育応援団！～親子で一緒に取り組んで、考えて、伝え合う～

親子で取り組む スマホ・ケータイの安心・安全利用

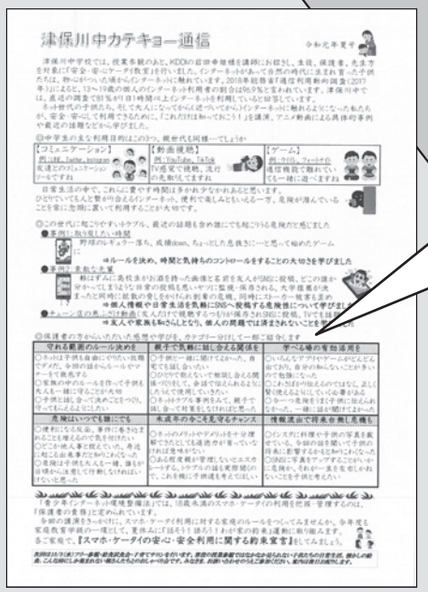
関市立津保川中学校

6月:情報モラル講演会

授業参観後に、親子「安全・安心ケータイ教室」を開催されました。1日1時間以上インターネットを利用していると回答した同校の生徒が81%という実態を受け、外部講師による講演会を実施されました。安全なスマホ・ケータイの利用について、親子で学ぶ機会にされました。

講演会の様子

家庭教育通信で学んだことを共有しました。



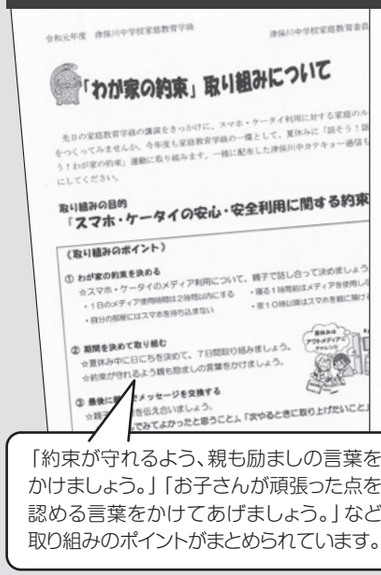
講演会後に、講演の中からの学びや参加者の感想等を、家庭教育学級長さんが分かりやすくまとめ、通信を発行されました。

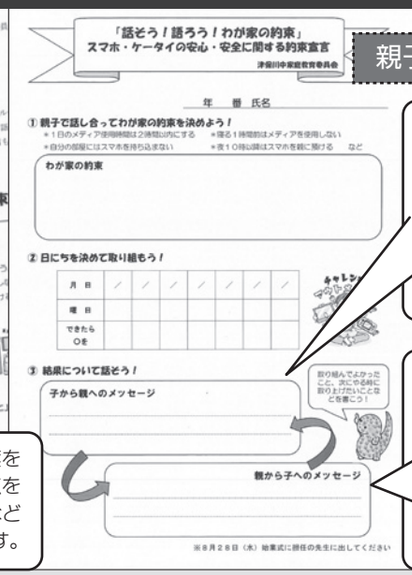
◇子どもと一緒に聞けて良かった。自宅でも話し合いたい。
◇家族の中のルールを作って、子どもも大人も一緒に守ることが大切。
◇一人で抱えないで、相談し合える関係づくりをしたうえで使用していきたい。

〈通信:参加者の感想〉

当日の講演の内容や参加者の感想を通信にまとめて広報することで、
・学びの再確認
・参加できなかった人への情報提供
をされました。講演会の学びを保護者で共有し、夏休みの在宅取組へつなげられました。

夏休み:各家庭で話し合って『スマホ・ケータイの安心・安全利用に関する約束宣言』を決め、「話そう！語ろう！わが家の約束」運動に取り組みました。





「約束が守れるよう、親も励ましの言葉をかけましょう。」「お子さんが頑張った点を認める言葉をかけてあげましょう。」など取り組みのポイントがまとめられています。

親子のメッセージ交換

◇子から親へ
学校がない分、スマホゲームをする時間に意識がいかなかったけど、2時間以内にしたり、9時以降はやらないことは守れたからよかった。

◇親から子へ
ルールを意識することができました。ついついスマホに手がいってしまいがちになるけれど、これからも決めたことを守っていこう。

親子で向き合おう 親子参加型の道徳授業で、心の交流を深める

白川村立白川郷学園
9年生

道徳資料「ドナーカード」から･･･心臓が止まった時が「死」なのだろうか。

車座になって、テーマについての思いや考えを語り合いました。

親
・生きていると思いたいのが家族みんなの気持ち。
・実際の経験として、手の施しようがないと言われても理解できなかった。心臓がとまるまでの4時間、家族で話し合い、最後は明るく送り出そうと決めた。
・ドナーと逆の立場だったら、捉え方は違うと思う。

子
・認めたくない。
・移植した場合は、他の人の体で生きられるということ。
・他の人が救われることはいいこと。
・死んだとも生きているともいえないグレーな状態。

教師
結論は出なくても、いろいろな価値観の中で自分の生き方を決めていくときがこれからもあるだろう。こういう話し合いの機会を家庭でも作っていってほしい。

子
語り合いを終えて･･･
・今回、親と一緒に調べたり、話し合ったりしなければ、このように考える機会はなかったと思います。これをきっかけに、いろいろなテーマについて話し合いたいと思いました。
・臓器提供というものは、立場によって考えが変わってしまうので、とても難しい問題だと思いました。親の意見を聞いてとても考えが深まりました。
・私は、臓器移植をしてもその人がどこかで生きているとか、その人のおかげでだれかが助かるということだけを考えていましたが、大人の考えはもっと現実的でした。深く考えることができました。

白川郷学園の子どもたちは親と「死」を語り合うことで、「命」について今まで気づかなかった見方を学び、考えを深めることができました。
秋の夜長、お子さんと、夢、愛、命など生き方について、政治、経済、自然環境といった社会の出来事について語り合ってみませんか。答えは出なくても、語り合いを通して、お子さんは自らの生き方を見つめ、考えていくことでしょう。

県のホームページでは、家庭教育に関する情報を発信中！ぜひご覧ください！

岐阜県　家庭教育学級　検索

お気軽にご相談ください!
家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。社会教育担当または家庭教育推進専門職までご連絡ください。

環境生活政策課	☎058-272-8752（直通）
西濃県事務所	☎0584-73-1111（内線219）
中濃県事務所	☎0575-33-4011（内線210）
可茂県事務所	☎0574-25-3111（内線208）
恵那県事務所	☎0573-26-1111（内線209）
飛騨県事務所	☎0577-33-1111（内線235）

【多様性尊重の教育⑬】シリーズ
みんな、いっしょに

「聲の形」が描く景色

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修　教授　安田 和夫

京都アニメーションの放火事件を受けて

先日、去る七月十八日におこった京都アニメーション第一スタジオ放火殺傷事件を受けて、関西の毎日放送の取材を受ける機会がありました。京都アニメーションが制作した作品の数々の中から、何カ所かの「聖地」を訪ね、インタビュー形式で「聖地の今」や「感謝の言葉」をつないでいく番組の一場面として、「聲の形」の聖地である大垣市で活動する手話サークルが取り上げられたのでした。

すでに、関西圏で、取材翌日の夕方のニュースに流れ、その後、制作された特集番組「祈りの夏・聖地の声～京アニに伝えたい感謝の言葉～」も深夜に放映されたところです。現在も、こうした番組の内容は、インターネット上で観ることができます。

さて、約三年前（二十八年九月公開）に、大垣市を舞台にしたアニメ「聲の形」が上映され、大ヒットとなったことは記憶に新しいところです。京都アニメーション映画には、現地での取材デッサンをもとに、見事なまでに再現された観光スポットや風景が数多く登場し、ある意味、実写映像をしのぐリアリティを感じさせてくれます。実は、私たちが毎週金曜日に例会を行っている大垣市総合福祉会館四階の研修室も登場しますが、初めて訪れた取材クルーのみなさんも、ため息をつくほど、緻密に再現されています。

「聲の形」が与えた変化や影響

「聲の形」は、聖地巡礼の他にもいろいろな変化や影響をもたらしました。愛知県や三重県から大学生が来て「ここで手話を学びたい」と何回か来てくれました。また、お父さんお母さんがお子さんとご一緒に入会していただくことや、兄弟姉妹で来てくれることもありました。手話のことがより多くの方々に広がっていくのがわかりました。

ただ、私は、映画化されたと聞いた時、すぐには映画館に足を運ぶことができませんでした。聴覚障がいのある少女（西宮硝子）に対するいじめやからかい、いじめ問題を一人の少年（石田将也）の責任として解決してしまう教育現場…、どのように描かれているのか、観ている人にはどう伝わるだろうか、気になるところでした。

実際に観た方々から「先生ってひどい人もいるわね」「大垣って、そんなに理解がないところなの」と、感想が聞こえてくることもありました。映像としてのリアリティを求める世界観は、時に、現実との境を見失います。

今も、障がいのある人たちへの差別偏見があるのは、「厳しい現実」として受け止めなければなりません。ただ、同時に、かつて硝子をいじめていた将也が、五年の時を経て高校生になった硝子と偶然再会し、自分の過去の過ちと改めて向き合い、硝子に会って話をしなければと切に願い、手話を覚えようとしていることも、また、その将也の姿を見て硝子が少しずつ心開いていくことも、それぞれの人間の成長であり、現実にありうることだと思います。

確かに、自分をいじめていた男性に恋してしまうなんてありえないという意見を読むことがあります。あり得ないシチュエーションかもしれません。ただ、アニメに描かれるリアリティとは、厳しくも優しくもある私たちの心模様そのものであり、現実だとも思えます。私たちは未熟な存在だからこそ、常に、謙虚に、成長していこうとします。失敗を繰り返しながら、経験値を高め、人としての成長を遂げることができるのです。

「聲の形」が描く景色は、その時間軸をこえた青年たちの成長であり、長く続いた激しい風雨が止んだ後のキラリと輝くまぶしい日差し模様なのかもしれません。

それぞれ離れた場所で、過去と現在を行き来しつつ、もがき苦しみながら生き抜いていた二人が再会することによって、止まっていた時計が動き始めたような気になりました。

硝子だからこそわかる真実

聴覚障がいのある硝子は、自分に対して、いじめたりからかったりしていた将也に、手話で、「（私たちは）友達」と話すときがあります。硝子の大事な補聴器を後ろから引きちぎったり、思い切り面前でからかったり、彼の言動がエスカレートしている最中でしたから、また、当時、手話を知らない将也でしたので、硝子の「私たちは友達だよね」という気持ちは、二人の中で共有されることはありませんでした。

ただ、いじめやからかいの相手を見つけたことで、退屈な毎日を吹き飛ばすように、やりたい放題の将也のことを一番理解しようとしていたのは硝子だったのかもしれないと思うのです。聴覚に障がいがあるからこそ、ことばだけではなく、相手の仕草や表情から、内面を理解しようとする硝子。ほどなく、硝子は転校してしまうのですが、将也の持っている特性や性格をわかろうとしていた彼女の姿は、交わした手話「友達」に凝縮されています。

五年後の再会の中で、習い始めた手話を使って気持ちを伝えようとした将也は、小学校時代の硝子の手話「友達」の表現の意味を悟ります。そして、当時、散々、いじめたりからかったりしたときの自分にさえ、しっかりと向き合おうとしてくれていた唯一無二の存在「友達・硝子」への感謝の気持ちと、未熟だった過去の「自分」の姿を顧みるのです。

京アニのみなさんへ

番組には取り上げられなかったのですが、私は、インタビューの最後に「突然、放火殺人事件により、夢を絶たれ犠牲となられた京都アニメーションの皆さんのご冥福と、今後、会社が力強く復活されることを心より応援しております。」という趣旨のことばで締めくくりました。

突然の事故、事件に巻き込まれ、かけがえのない命が失われる無念さ、理不尽さ。ご本人はもちろんのこと、ご家族の思いは計り知れぬものがあります。私たちも、身近なところから、悲しみのない社会を目指して、問題と向き合い、できることを続けていきたいと思います。

保健室ノート

歯と口の健康づくりから始まる 笑顔あふれる赤坂小

大垣市立赤坂小学校
養護教諭
小西 加奈

赤坂小学校は、大垣市北西部に位置する金生山の麓にあります。金生山では石灰岩や大理石の採掘が盛んで、昔から「石灰の町赤坂」として有名です。また、江戸時代には「中山道赤坂宿」として栄えました。

朝のあいうべ体操

赤坂小学校では、毎朝「あーいーうーべー」という、子どもたちの元気な声が校舎内に響いています。「歯科保健活動」の取組の一つとして、全校で「あいうべ体操」を行っているからです。この体操は口呼吸から鼻呼吸へと改善するためのもので、歯科口腔疾患に対してだけでなく、アレルギー性疾患やうつ病・腸疾患の症状改善やインフルエンザ予防等々に効果があると言われています。二十八年度に校内で行った歯科保健調査で、「言葉の発音が気になる児童」が全校の二十一・三%、「普段の生活の中で口をぽかんと開けていることがある児童」が五十八・九%という結果であったため、これらを改善することを目的に「あいうべ体操」を実施し始めました。体操の効果や正しい方法について事前に指導をしたことで、口をしっかりと動かした「あいうべ体操」ができています。この体操を地域に広める活動も展開しており、保健委員会の子が「赤坂地区センターまつり」や地域の老人福祉施設で「あいうべ体操」の説明や発表・交流などを行っています。こうした活動を通して児童は自分たちの健康行動について自信をもち、地域での活動の輪を広げています。

家庭と連携した取組としては、歯と口の健康チェック・アンケートの実施や親子での歯垢の染め出し、夏休みの『歯と口の健康チャレンジ』などを行っています。『歯と口の健康チャレンジ』では、毎日の歯みがきだけでなく生活習慣や食習慣、歯科医院での治療なども大切であると考え、「歯みがき」と「その他の口の健康」の二つの目標を設定してチャレンジしました。児童一人ひとりの実態や課題は多様化していますので、チャレンジコースを複数設定して例示しました。いつも口が開いている子や歯並びのよくない子には「あいうべ体操」、歯医者を嫌がりむし歯の治療ができていない子は歯科医院での治療、普段よく噛んで食べていない子はよく噛むことなどを目標にしました。自分の課題に応じた取組ができるようにし、保護者には、児童がよりよい習慣を身に付けるために、温かい言葉掛けや見守りをお願いしました。取組後のカードには、「よく頑張ったね。これからも一緒に続けようね」といった前向きな言葉がたくさん見られ、家庭の温かさを感じました。

このように歯科保健活動を進めてきて大切にしてきたことは、児童が大人によって管理される『他律的な健康づくり』から、児童が自分で思考判断し意思決定や行動選択をしていく『自立的な健康づくり』へと移行できるようにしていくことです。そのために、児童や保護者の「知識」「意識」「行動力」の三つの力を高められるように働きかけてきました。

1年 ファミリー参観 歯垢の染め出し

活動の成果として、今年度のアンケート調査では全校で八十四・七%の児童が、「毎日三回歯磨きをしている」と回答しており、活動を始めた一昨年度より約一割増えました。回数だけでなく、「鏡を見ながらの歯みがき」「歯みがきを丁寧にしようとしている」「言葉の発音がはっきりと正しくできる」といった項目でも改善が見られました。未処置歯者の受診率も九十四%になり、ほとんどの児童が受診できるようになったことから、保護者の意識と行動力が向上してきたことがうかがえます。また児童の知識・意識・行動力についてもよい方向に変容がみられたと感じる保護者が全校の半数以上に上っています。今後さらに取組を工夫・改善し、保護者や地域の方々の理解や協力をいただきながら、「よりよい健康行動を選び習慣化できる児童」を育てていけるように活動を充実させていければと考えています。

学校歯科医による個別指導

今の自分があるのは

郡上市立明宝中学校講師
新井 洋太

中学生の頃、私たちの合唱を聞いて感動し涙を流された先生、休み時間に一緒になって真剣にバスケをしてくださった先生、未経験だけど部活でよく話を聞いてくださった先生、授業が面白くて信頼できた先生、失敗を厳しく正してくださった先生、正面から向き合おうという情熱が伝わってきた先生、そんな先生方の魅力を感じ、ぼんやりと、教師っていいなと思っていた。

高校生になり、今でも恩師と慕う一人の先生に出会った。魅力ある多くの先生方との出会いが、私の教師になりたいという思いを強くさせたのだが、その先生との出会いがなければ、学校で働く今の私はいないだろう。その先生は私の可能性を広げてくださったのだ。

私は小学校一年生から続けていた剣道をもっとがんばりたいと思い、先生がいる高校へ進学した。毎日の部活動は厳しく、休日も遠征。課題も増えて毎日へとへとだった。それでも、先生の指導の下、必死に練習をした。その結果、選手として試合に出ることができ、全国の強者と剣を交えたり、勝つ喜びと負ける悔しさを味わったりすることができた。その経験は私の財産である。私のそばにはいつも先生がいた。負けた時、調子が悪い時、気持ちが入らない時、厳しく指導してくださったり、優しくフォローしてくださったりした。勝った時、頑張っているときには、温かい笑顔で迎えてくれた。優勝して一緒に流した嬉し涙は今でも鮮明に覚えている。私に正面から向き合ってくださる、親のような存在だった。私が成長できたのは間違いなく先生のおかげである。

先生と過ごす毎日。ぼんやりとした「教師っていいな」という思いはいつしか、「教師になりたい」という強い思いに変わっていた。教師になって子どもの可能性を広げたい、教師になって先生に恩返しをしたいという思いだった。

大学に進学してからは、帰省するたびに先生に稽古をつけていただき、飲みに連れて行ってもらった。帰省して会うことが決まると少し緊張するけれど、会ってみると、緊張が安心に変わる気がした。話していると、「もっとがんばらないと」という気持ちになり、エネルギーをもらった。そんな気持ちから、大学生の頃も、講師として働く今も、先生と話しているとなんだか泣きそうになる。その時、先生は決まって「時間を共有したからだ」という。高校生の時、先生の下で剣道ができてよかった、先生に出会えて本当によかったと思う。高校生の時はもちろん、大学生の時、そして大人になった今でも、私を一人の人として信頼してくださること、いつまでも親のように面倒を見てくださること、様々なことを教えてくださることを本当に嬉しく思うし、感謝の気持ちでいっぱいである。

教師になりたいという夢を追い続け、講師五年目になる。この五年間でも、魅力的な先生方との出会いばかりである。講師になりたての頃は、気持ちに余裕がなく、教師って大変で忙しいと思うばかりであったが、私の余裕のなさに気付いて声をかけてくれる先生のおかげで救われた。また、授業を一緒に考えてくださる先生、学級経営を助けてくださる先生、いつも明るく楽しい先生、どの先生もいきいきとしていてかっこよく、教師の面白さを感じることができた。子どものために一生懸命な姿を見て「こんな先生になりたい」と思う瞬間がいくつもあった。そんな先生方との出会いは、私の教師になりたいという思いをさらに強くした。

講師として働く今、剣道はもちろん、学級、授業や行事で、子どもたちが活躍する姿、たくましく成長する姿を見ることが私の幸せである。そう感じられるのは、私が出会った先生方のおかげである。これからも教師という夢を追い求め、いずれは、出会った先生方に恩返しをしたい。そして、子どもたちの可能性を広げられる教師でありたい。

子育て半生記

岐阜市立長森東小学校　校長　永井 浩司

人間とは

京都大学霊長類研究所で所長を務められた松沢哲郎教授は、チンパンジーの研究の第一人者です。世界で初めて言葉や数字を理解した天才チンパンジー「アイ」の研究者としても有名です。松沢教授は、ご自身の著書やホームページの中で、チンパンジーの子育てについて大変興味深い研究結果を数多く紹介してみえます。

「チンパンジーの教育と学習を『教えない教育・見習う学習』と呼んでいます。チンパンジーの教えない教育・見習う学習には、『親や大人は手本を示す』『子どもは真似る』『大人は寛容』という三つのポイントがあります。親や大人は手本を示すだけで「ああしなさい」「こうしなさい」とは言いません。真似なければいけない理由はないのですが、子どもは放っておいても真似ます。そして関わってくる子どもに対して親は非常に寛容です。「じゃまだからあっちに行け」とは言いません。」

こうした話を聞くと、あらためて親子関係は奥が深い、人間社会だけでなく、他の生き物の子育てからも親のありようや大人としての振る舞い、社会性など実に多くのことを学ぶことができる、と思うのは私だけではないと思います。

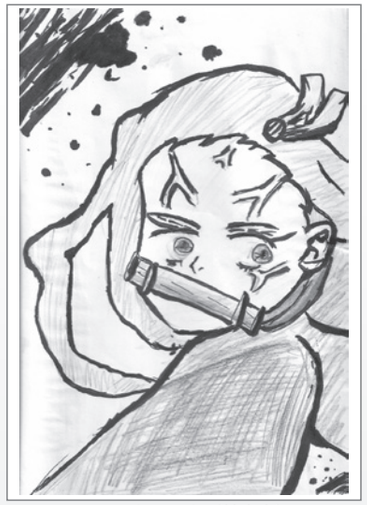
また、松沢教授は、「チンパンジーにはない人間の本質は、”想像するちから“です。チンパンジーは、つきつめていうと、『今、ここ、わたし』の世界を生きている。それに対して、人間は過去にも将来にも広がった世界で生きている。人間は想像するちからがある。だからこそ絶望もするが、希望をもつこともできる。想像するちから、それによって、遠く離れた過去や未来に思いをめぐらし、遠く離れた場所で苦しむ人々に心を寄せ、ほかのひとたちとのつながりのなかで生きている。」とも述べてみえます。

人間とは何かという問いについて、深く考えさせられる視点が沢山あることに驚かされます。また、物事を見る視点を変えることにより、あらためて人間自身のよさを見つめ直すことができるという考え方や人間がもつ「想像するちから」は実に素晴らしいものだという考え方に、つくづく共感させられます。

「想像するちから」を勝手に解釈して、「遠く離れた過去や未来」に思いをめぐらしてみます。人生には様々な分岐点があります。何が自分にプラスに働くのか、それともマイナスに働くのかは、その時々では分かりにくいものです。高校卒業後、獣医になりたいと農学部を志望した私でしたが、夢叶わず三年の月日が流れた若かりし頃の思い出。夢を見失い、自分の存在意義を問うために、そして生きるために様々なアルバイト生活に明け暮れ、先が見えない孤独な日々を淡々と過ごしていました。人生の渦の中でもがくそんな私を唯一救ってくれたのは「絵」を描くことでした。絵を描いている時間だけは、自分が自由になれた気がしたからです。けれども、絵を描く環境や経験などあるはずもありません。様々な本を読み漁りながら独学で絵を学び、誰にも知られることなく大学を受験し、そして合格したときは、久しぶりに真正面から夕陽を見ることができたのを今でもはっきり覚えています。同時に、幼少期から長い間「ああしなさい」「こうしなさい」と指図することなく、私を遠くから見ていてくれた両親にはただただ感謝です。

現在私は、図画工作・美術科の教員として学校経営にあたっています。「自分の可能性を信じ勇気をもって未来に思いを馳せること」「他から学ぶ謙虚さをもつこと」「人間がもつ想像するちからを生かすこと」を大切にしてほしいと願います。そして、自分自身「結果を性急に求めすぎない大人」でありたいと思います。

Illustration&Quiz
イラスト&クイズ



PN. しるるん（岐阜市）

PN. Tomosaburo（養老郡）

question 1

出題・伊藤 慎介（山県市）

〈答えは34ページ〉

窓のあいだに星をはさむ
と何色になるかな？

楽しい読み聞かせ 7

『学校』『家庭』『地域』が連携する「読み聞かせ」

八百津町立久田見小学校ＰＴＡ

久田見小学校は、標高五二〇ｍの高原に位置しています。校区は、久田見・福地地区の二つです。

久田見地区では、毎年、四月の第三日曜日に、一五九〇年から始められたとされる「久田見祭り」が開催されます。

また、福地地区では、標高九〇五ｍの見行山登山や、体験型の地域独自の行事等も開催されています。

全校児童三十九名の小規模な学校ですが、「学校」「家庭」「地域」が力を合わせ、「ふるさと」に誇りと愛着をもてる子どもたちを育てるよう努力しています。

久田見小学校ＰＴＡ活動の重点は『家庭で一緒に実践しよう』です。この重点に向け◎「家族で食事」◎「家族でしつけ」◎「家族で共同体験」という三つの項目を設け、家庭での実践を行っています。

心豊かな子どもたちを育てるためには、読書も大変すばらしい活動です。「学校」や「地域」と連携しながら、読書活動を子どもたちに積極的に進めています。

具体的な実践例として「家族読書週間の取組」「町ボランティアの方の読み聞かせ」「先生方の読み聞かせ」について紹介します。

家族読書週間の取組

毎年、家族読書の日を決めて取り組んでいます。六月と十二月の二回実施しています。

今年度の一回目は、六月十七日(月)から二十三日(日)までの一週間の取組でした。下の表のような「かぞくどくしょのきろく」カードを全家庭に配り、取組を行いました。

このカードには、『家族読書のめあて』や『家族読書の感想』、「お家の方から』という欄が設けてあり、子どもや保護者が本を読んだ感想を書く欄もあります。

期間を決めて親子で読書に取り組むことは、保護者にも、子どもにもよい時間となったようです。保護者からの感想欄にも、「ふだん、なかなか一緒に本を読むということがなかったのですが、一緒に読めて楽しい時間が過ごせました。」と記述されていました。

町ボランティアの方の読み聞かせ

月一回程度、町のボランティアの方がみえて、朝の会の時間に読み聞かせをしてくださいます。各教室で準備ができると、子どもたちは、担当のボランティアの方を校長室まで呼びに行きます。子どもたちの実態に合わせた本をいろいろと準備して読んでくださるので、子どもたちは、毎回楽しみにしています。

年度の最後のお礼の会では、全校の前で音楽や映像を駆使しながら担当者全員で役割分担し、読み聞かせ劇をしてくださいます。臨場感あふれる読み聞かせが大好評です。

先生方の読み聞かせ

年に一回、学校の先生方からも読み聞かせをしてもらっています。いつも子どもたちのそばにいて、子どもたちの様子を知っている先生ならではの読み聞かせが行われています。読み聞かせの本は、先生方が独自で選んでくださいます。

また、写真のように、具体物を使った読み聞かせをしてくださる先生もみえて、子どもたちの楽しみな時間となっています。

先生も、保護者も、地域の方々も、子どもと一緒になって、本に向かい合うこと。大人の真剣な姿を示していくこと。このことは、本が好きな子どもたちを育てることに必ずつながると思います。

これからも、久田見小学校ＰＴＡとして読書活動を大切にしていこうと思っています。

親の背中 ②

「我が子よ！いいも悪いも親を見て学べ!!」

中津川市立付知北小学校
ＰＴＡ副会長　片田 亜由美

ＰＴＡの役員会で、「親の背中」の原稿を誰が書くかということになりました。人前で話すことが苦手な私は、文章を書くことも得意なわけではありません。でも、人前で何かを話せと言われるくらいなら、それよりも原稿を書く方がまだましだと思い、「書きます。」と言ってしまいました。

しかし、それが簡単なことではないことは、後になって分かってきました。夏になり、さてそろそろと原稿用紙に向かったものの、「親の背中」と言われても何をどう書いてよいやら分かりません。ここはインターネットを参考にしてみようと、パソコンで検索してみると、こんな一節が目に留まりました。

『子どもにあえて教えない親のすべき大切な習慣』

それは何かというと、「礼儀作法」や「他人を思う心」、また「清潔でいること」などと書いてありました。それが自分はどうだろうと振り返ってみると、自分自身あまりできていないように思えました。考えてみると、家での私は両手がふさがっていると足でドアを開けてしまうし、父親（主人）は使った物をもとの所に戻さないし、背中を見られて困る様な事はあっても、誇れるようなことはありません。案の定、子どもの様子を見ていると、やはり同じ様に足でドアを開けるし（両手がふさがっている時だけですが）、使った物も戻さない子になっていることに気付きました。まさしく「親の背中を見て子は育つ」です。残念ながら悪い方の…ですが。

でも、決して手本とならない背中を見せてきたことも悪いことばかりではなかったようです。子どもは子どもなりに親の背中を見て「こうはしたくないなあ。」と思うのか、私達夫婦とは違う考えや行動が見られる時もあるのです。もう子どもも六年生なので、それなりに親のやっていることを見ながら、自分なりにどうしたらいいのか判断するようになったのかもしれません。親としては、自分達が冷静に見られていると思うと、なんとなくおかしな感じもありますが、逆にいつまでも親の言いなりであっても困ります。それなのに、やっぱり我が子には、いつまでも親の背中を見て真似してほしいなあと思う自分があり、なんとも複雑な気持ちで子どもを見つめてしまいます。

間違いないことは、子ども達には自分の意思をしっかりもって、その意思を大事にしてほしいということです。そのためには、時には親を見ながら「これはだめだ。」と思われることも仕方がありません。私達も、背伸びをせず、自分なりに子どもに見られて恥ずかしくない「親の背中」を示すことができるよう、親として成長していきたいと思います。

そして、いつか子ども達がもう少し大きくなったら、時々でいいので「親の背中」を見て、少し小さくなったなあと気にしてくれる時が来るのを楽しみにしています。

わが子に想いをつなぐ

飛騨市立神岡中学校ＰＴＡ
長原 有紀

私が中学生の頃、母をよく知る近所のおばちゃんが母を褒めてくれました。私自身、「母はすごいなあ。」と思っていたのでとてもうれしかったのを今でも覚えています。母は滅多に愚痴も不満も言いません。とても頑張り屋で我慢強い人だと、中学生の頃、子どもなりに思っていました。

まだ学生の頃、ピンクのマニキュアを塗ったことがありました。母は「お父さんに叱られるかも。」と心配していたようです。でも、父は叱ることはなく、結局、マニキュアを塗ったことについて何も言いませんでした。

仕事を始めた頃、私は「精神的に強くなりたい。」と言う理由もあって山岳救助隊に入らせてもらいました。当時の職場に救助隊の方がいらして、「興味があるなら話をしてやる。」と言ってくださいました。山のことなど何も分かりませんでしたし、登山もしたことなどありません。ただ、母は登山が好きで若いころから色んな山に登っていたみたいです。私たちが大きくなってからも父に快く送られて、登山に出掛けていました。「登山なんて何がいいんだろう。」と理解できないまま救助隊に入り、職場の方のご家族と一緒に双六岳に登りました。体力だけは自信があったので、何とかなるだろうと簡単な気持ちで登山に向かいました。その前に、救助隊に入隊することを両親に伝えました。苦笑いしていたでしょうか。でも反対することも怒ることもしませんでした。事後報告ということもあったからでしょうか。

そして双六岳登山です。甘かったです。歩いても歩いても山荘につきません。それでも途中に咲いている花を綺麗だと感じたり風景を楽しんだり、奥様方と（辛いと言うと次からは連れて来てもらえなくなるから）、「歩くの飽きたなあ。（笑）」と笑ったりしながら、何とか山荘に着きました。結局、初登山は頂上までたどり着けませんでした。けれども、達成感がとても心地よく、登山の良さが少しだけ分かった気がしました。

ある日、両親に思い切って尋ねました。「どうして、好きなことをしているのに何も言わないの？」と。両親は「もう大人なんだから任せている。」と言ってくれました。その時、両親から人を信じることを学んだ気がしました。

わが子もこの先、色んな壁を乗り越えて行かなければならないと思います。その時頑張っている私たち両親を思い出して「もう少し頑張ってみようかな。」と思ってくれたらうれしいなと思っています。そして辛くなったらいつでも帰って来て欲しいです。その時は好きなものをたくさん作って迎えてあげたいとも思っています。

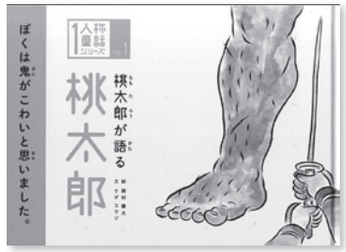
子どもたちの未来がたくさんの幸せであふれていますように。笑顔がいっぱいの人生でありますように。

私が出会った1冊の本【続43】

桃太郎が語る桃太郎

クゲユウジ　著
高陵社書店

各務原市立陵南小学校ＰＴＡ
米田 伸江



私は、母親になってから、一人で読書を楽しむだけでなく、子どもたちに読み聞かせるという新たな楽しみを味わってきました。現在上の子が高校生ですから、読み聞かせ歴はとても長くなります。今回は、子どもたちに読み聞かせたい本という視点で、「桃太郎が語る桃太郎」を紹介します。この本のおもしろさは、主人公である桃太郎自身が、ストーリーやその場面での素直な気持ちを語っていくところにあります。

さて、皆さんが思い浮かぶ桃太郎の最初のシーンは、どうでしょうか？おじいさんが山へ芝刈りに行き、おばあさんは川へ洗濯に…そして桃が流れてくる…。ところが、まず一ページめくると、なんと桃の中から外の世界、生まれる前のこの世を見ている桃太郎目線の絵が大きく、大胆に描かれています。出会った時のおばあさんに対する桃太郎の気持ち、桃を切られて桃太郎が初めて見るおじいさん、おばあさんのびっくりした顔！そして二人に抱っこしてもらい嬉しかったという場面、始まりから既に魅力的です。さらに桃太郎が鬼ヶ島に行きたいというシーンから、鬼ヶ島に行くまでに出会う動物たちのシーンまで、すべて桃太郎自身が語っているので物語の中にどんどん引き込まれていきます。

例えば、「きびだんごをぼくに渡すまで、二人はとまどい三日かかった」というおじいさんおばあさんの描写や、一緒に鬼ヶ島に行くサル、キジ、イヌに出会った時の第一印象が素直な桃太郎の言葉で語られています。中でも、私は「サルに『ありがとう』と桃太郎が言うと、サルの顔がおしりよりも赤くなりました」というくだりでは、サルの恥ずかしそうにしている雰囲気が伝わってきてほのぼのとした気持ちになりました。

また、いよいよ鬼ヶ島で鬼を倒そうとするときの桃太郎が、「ぼくはぎょうてんしました。（でも）ぼくの足がふるえることはありませんでした。立ち向かったのです」と、やや本音も少し混ざり語っているところでは、桃太郎を身近に感じることができました。

実際に、小学二年生の二男に読み聞かせをしてみました。絵本のタイトルに、やはり「あれっ？」という感じでした。私が、「桃太郎が話をしている本だよ」と伝えると、「えっ？」と目を見開き、読み始める前から身を乗り出して聞きはじめました。鬼に立ち向かう時の、桃太郎の手がふるえていた場面からは、「それだけ大きくて強そうな鬼なんだね、怖かっただろうな」と話してくれました。またこの絵本には、桃太郎の絵が一切描かれていないので、「どんな顔をしているのかな？赤ちゃんの時、子どもの時、鬼ヶ島へ行く時は？」と想像を膨らませて楽しく話をすることができました。

子どもも大人もよく知っている「桃太郎」というお話ですが、出会う人物や動物、鬼に対する気持ちを桃太郎自身が語るというちょっと変わった切り口だからこそ、子どもはまるで自分が桃太郎になったように本に入り込めます。子どもと一緒に読めば、「桃太郎は、こんな風に思っていたんだね、あなたならどう？」と、問いかけながら、心の会話を楽しめる一冊、みなさんにもお勧めしたいです。

コーヒーが冷めないうちに

川口 俊和　著
サンマーク出版

揖斐川町立谷汲中学校ＰＴＡ会長
加納 和貴

過去に戻れる映画や小説では、「過去に戻って、現実に影響を与えるような干渉をしてはいけない」というルールがあります。過去に戻って両親の結婚、または出会いを邪魔した場合、自分が生まれる原因がなくなってしまうので、現実の自分は消えてしまうようなことがあるからです。この作品は「過去に戻ってどんなに努力をしても、現実は変わらない」という設定で書かれています。そんな一風変わった設定にもかかわらず、タイトルカバーには「四回泣けます」と書いてありました。現実が変わらないのに、泣けるのはどうしてなのかと疑問に思い、この本を手に取りました。

私は普段ほとんど読書をしません。時々あらすじだけ読み、分かったつもりになって本を閉じることが多いのですが、この本は少し読んだだけで引き込まれてしまい、いつの間にか目頭が熱くなっていました。

若年性アルツハイマー型認知症を発症した房木は、過去に戻って妻に渡しそびれた手紙を渡そうと、過去に戻れるという都市伝説のある喫茶店に通っていました。しかしなかなか過去に戻ることができません。

一方で妻は房木の混乱を避けるため、周りの人には旧姓の高竹と呼ばせていました。看護師として支えていくと覚悟していたものの、夫を喫茶店へ迎えに行った際に、「どこかでお会いした事、ありましたっけ？」と言われたことにショックを受けます。喫茶店の人たちから、房木が高竹に手紙を渡そうとしていたことを聞き、記憶が残っているころの房木から手紙を受け取るため、彼女は過去に戻ります。

過去に戻り、房木に手紙の話をしたところ、未来から来たことを言い当てられてしまいます。しかも房木は、自分がアルツハイマーであることを自覚しており、看護師の妻が今後どのように接していくかも分かっていました。

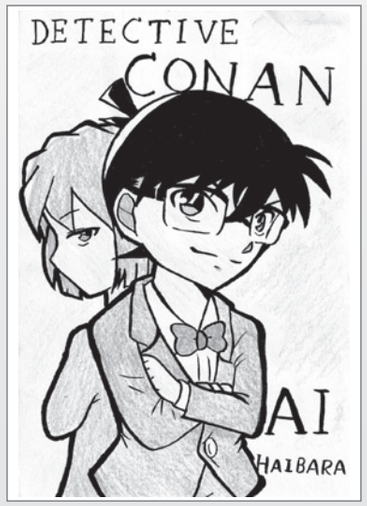
房木が渡せなかった手紙には、「おれたちは夫婦だから、夫婦としてつらくなったらわかれればいい。おれの前で、かんごし、であるひつようはない。夫としていやなら、はなれればいい。つまとしてできることだけでいい。夫婦だから。きおくをうしなっても、おれは夫婦でありたいと、おもうから。どうじょうだけで、いっしょに、いるなんて、まっぴらごめんだ」と書かれていました。あまり読み書きができない房木でしたが、気持ちのこもったものでした。

高竹は「看護師としてではなく、妻として接してほしい」という手紙の内容から、夫婦としての気持ちに大きな違いがあったことを痛感しました。

夫婦として毎日一緒にいても、口に出さないと伝わらないことはよくあります。私も口数が多いほうではないので、思いを伝えることは苦手ですが、そんな私に夫婦とは何かを考えさせてくれた一冊でした。

Illustration&Quiz
イラスト＆クイズ

ＰＮ．スーさん（養老郡）



ＰＮ．カイヤナイト（高山市）

question❷

出題・木村 恵美（各務原市）
〈答えは34ページ〉

さわると手がこごえちゃう
家具ってなあに？

11月号の

親子で はてな

Q1 きれいに紅葉する条件として、正しくないのは次のうちどれでしょう?

ア　日当たりが良い

イ　昼夜の温度差が小さい

ウ　適度に湿度がある

エ　土地の水はけが良い

Q2 インフルエンザやノロウイルスといった病気が増える時期ですが、免疫力を上げるのに効果的な食べ物は次のうちどれでしょう?

ア　レモン

イ　唐辛子

ウ　ヨーグルト

エ　青魚

応募方法

応募者は、はがきで、11月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先　〒500−8816
岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

- ●11月号クイズの答え
- ●郵便番号・住所 学校・学年・氏名 保護者名
- ●『わが子のあゆみ』への感想・意見
- ●「なぞなぞ」の問題と答え
- ●逆さ言葉

9月号クイズ答え

Q1 (エ)　Q2 (ア)

9月号のクイズ当選者

中村　心音	(岐阜市)	鈴木　麻友	(郡上市)
木戸　綾乃	(羽島市)	藤田　悠歌	(郡上市)
池田　涼菜	(大垣市)	藤田　桃歌	(郡上市)
勝　咲来歩	(不破郡)	和田　智咲	(郡上市)
浅野　莉子	(安八郡)	三宅　晴	(美濃加茂市)
名和　氷鏡	(安八郡)	平田　健人	(加茂郡)
山岡　潤惺	(関市)	川杉　まゆ	(中津川市)
河村　怜奈	(関市)		

なぞなぞの答え
①からし色(まスタード)
②テーブル(手がぶるぶる)

わが家の約束 全校アンケート

瑞浪市立明世小学校PTA

明世小PTAの巻 94

明世小学校PTAでは全校の保護者に『わが家の約束アンケート』を実施しました。それぞれのご家庭の約束には親としての温かい願いが込められていました。今回その寄せられたアンケートの中から一部を紹介します。

《わが家の約束》
○夜遅くなっても出来る限り絵本を読む時間を作る。
○学校で誰と遊んできたのかを毎日聞く。

《願いや理由》
○絵本に興味が強いのでできるだけ読んであげたい。親子のスキンシップとして。　(二年生保護者)
○「米研ぎ、靴揃え、台所とトイレのタオル替え」三つの手伝いを三姉妹が毎月ローテーションで行う。
○「おはよう、おやすみ、いただきます、ごちそうさまでした」のあいさつをする。

《願いや理由》
○決まった手伝いではなく気付いて動いてほしい。　(四年生保護者)
○いっぱい話をしよう(今日あった事、思った事、相談事ややってみたい事など)。
○やさしい心を大切に。

《願いや理由》
○基本的な事だがこれが一番難しいので自然とできるようになればいいと思っている。もちろん自分も心掛けている。　(三・五年生保護者)

約束の内容は、「家族で挨拶・会話」「お手伝い」「学習・読書等」「ルールやマナー」「基本的な生活習慣」等がありました。どの家庭も、約束作りや約束を守ろうとすることを通して家族のふれあいが生まれ、仲が深まっていることを感じました。PTAでは、いろいろな機会で交流していきたいと考えています。

話そう!語ろう! わが家の約束

森家の巻 95

瑞穂市立穂積中学校PTA副会長　森 芳

親の願いと約束から繋がる家族の絆

我が家は高校生の息子と中学生の娘がいます。生活面の約束は

一　**あいさつをする。**
二　**ゲーム、スマホはルールを守って使う。**
三　**三食きちんと食べる。**

朝の「おはよう」はもちろんのこと、特に「ありがとう」は優しさあふれる言葉です。相手に感謝が伝われば素敵なことで、習慣として身につけることが大切だと思います。また、ゲームやスマホの使用時間は自分たちで決めています。あって当たり前の時代です。『やってはダメ!』ということより、正しい使い方を、親も子どもたちと一緒に学んでいければと思っています。

そして、子どもたちは守れたり、破ったりしながら人との関わりや社会のルールの大切さを学んでいくのでしょう。

道徳面の約束は「人に優しくする」「人の嫌がることはしない」「命を大切にする」などです。そしてこれは親の願いでもあります。実際、このように行動する事は難しいことで、言葉だけでは伝えきれないことばかりです。よく耳にする言葉で「親の背中を見て育つ」という言葉があります。「子どもは親のやることを身近で見ながら育っていく」というものです。この言葉を心にとめ、私自身も人に優しく、誠実でありたいと思います。そして、これも子どもがいるからこそ気づけたことです。感謝の気持ちを込めて『心からありがとう』。

子の思い

わたしは四人きょうだい

岐阜市立藍川小学校
三年　外薗 優亜

わたしは、四人きょうだいです。私のほかに妹が二人、弟が一人います。ともだちは「四人もきょうだいがいて、たのしそう。」と言うけれど、お母さんには「うるさくて、赤ちゃんがおきてしまう。」としかられてばかりです。四人も子どもがいると、テレビの音も聞こえないくらいとてもうるさいのです。

一番たいへんなのは、きょうだいのおせわをすることや遊んであげることです。理由は、たくさん動いてつかれてしまうからです。でも、妹が入学した時には、四人目の子が生まれてママが入院していたので、時間わりを教えてあげました。弟と遊ぶときは、やきゅうをしてあげます。たまにだけど、楽しく笑いながらきょうだいで一緒に遊びます。妹や弟がよろこんでいるところを見ると、わたしもうれしくなります。

わたしは、一番上のお姉ちゃんなので、お姉さんが欲しいです。私がおとなになって赤ちゃんができたら、やさしくて、かわいくて、きれいな女の子をそだてたいと思いました。

お母さん、私がんばって生きる！

養老町立日吉小学校
六年　草間 智咲

私は、これまでの学校生活で、学校へ行く時に泣いてしまったり、友達のことで不安になったりして、お母さんに心配をかけてきました。それでもお母さんは私のことを大切にしてくれて、好きでいてくれます。私もお母さんのことが大好きです。

もしお母さんがいなくなったらとても寂しいです。それでも私は強く生きていきたいと思います。そして、お母さんに恩返しができるようになりたいです。

将来、きちんと仕事に就けるように、勉強を頑張っています。人前でも自分の思いを話せるように、学校でもリーダーの役割をしています。お母さんが私を大切にしてくれているように、私も周りの人を大切にしています。

こうやって私が成長することが、お母さんへの恩返しになるのかなと思うから、私は強く生きていきたいです。

貴重な時間を経て

美濃市立美濃中学校
三年　児山 月渚

三年生になってから今までの時間は、私にとってとても貴重なもので、今のクラスを大好きになる数ヶ月となった。首都研修にこの仲間で行けたことがきっかけとなって、私は今のクラスが大好きになった。

私のクラスの学級目標は、「愛」。私達は首都研修に向かう前日、「五十％楽しむ、五十％我慢する」ということを大切にして三日間を過ごすと決めた。五十％の我慢とは、時には仲間のために自分の思いを我慢すること、つまり我慢と言う形で表す仲間への「愛」ということだ。

どの班にも、仲間への「愛」のある行動がたくさんあった。私の班でのある出来事を紹介したい。Yさんには首都研修の班別行動の時間にどうしても行きたい場所があった。班員の誰もがそれを知っていた。岐阜にいたらなかなか行く機会はない。だから、その子のために私達はその場所に行こうと時間を調整していた。みんなの願いを実行できるように事前の計画は念入りにした。それなのに、実際東京では時間に追われ、行く場所を削らなければならない事態になった。その時、「私の行きたいところは、いいよ。」Yさんが切り出した。「みんなが楽しんでくれればいいよ。」Yさんはただそれだけを繰り返した。絶対行きたかったはずなのに班の子のために、Yさんは我慢という選択をなんの躊躇もなく選んだ。他の班員はそれから、自分のことは後回しという我慢を選んだYさんのためにいろいろ行動するようになった。電車の中では危なくないように場所をつくったり、迷子にならないように常に声をかけたりした。私の班はYさんの行動をきっかけに、仲間に対する温かい心＝「愛」で、満ちあふれていった。だから首都研修は最高の思い出になった。

私のクラスは、仲間に対する温かい心をもち、居心地がよくて、毎日が楽しい。でも、今、卒業という節目に向かっている。卒業する時に、クラスの仲間全員がこのクラスでよかったと思えるように、私は仲間への「愛」を追求して残りの日々を過ごしていきたい。

親の願い

親の願い

羽島市立足近小学校
PTA会長　田中 康博

昨年の事ですが、中学生になった息子を連れてカンボジアに行きました。

現地では一泊二日しか過ごさなかったのですが、地元のマーケットに行ったり、寺院を見たりするだけではなく、日本の方が運営をしている「くっくま孤児院」というところにも行きました。

孤児院では、子ども達が踊る民族舞踊を見せてもらうだけでなく、息子は孤児院の子どもたちとサッカーを楽しんでいました。とにかく明るい子ども達。満面の笑顔で接してくれました。でも孤児院にいるという事は身寄りのない子ども達です。

他にもカンボジアのマーケットや街で見かける子ども達の姿を見ると、その表情の明るさに心が温まる思いをしました。

一方で生活はとても豊かになった日本ではありますが、子ども達の元気な姿をどれだけ見れているのだろうか？そんな事を感じてしまいました。一緒に行った息子も、現地で感じるものがあったようで、帰国後は以前よりも明るく過ごすようになりました。今の生活を当たり前だと思い不満や愚痴を誰もがこぼしがちではありますが、もっと辛い環境の中でも明るく過ごす同年代の子ども達の姿を通して今の環境に対する感謝の気持ちなど

県立大垣桜高校
まんが研究部

もみじがり

逆さ言葉

ねいきおおきいね

（寝息大きいね）

出題・五十川 陽菜（揖斐郡）

子の思い 親の願い 教育の窓

が芽生えたのかもしれません。

今の環境に感謝ができた時、人は不満を口にしなくなります。ただ感謝できるかどうかはどんな環境を手に入れるかではなく、感謝を感じられる心を育めるかどうかではないでしょうか？当たり前ではなく、ありがたい（有難い）と感じられるきっかけを作る事は、ますます物や情報に触れていくこれからの時代でも大切になっていくはずです。

我が家では、カンボジアという国での体験でしたが、まずは私たち親が不満を口にする事を減らし、感謝の言葉を口にする機会を増やすことが、子どもによい影響を与えるのではないでしょうか。

親としての願い

可児市立中部中学校
PTA会長　佐合 英巳

私には二人の子どもがいます。上が二十歳（もうすぐ二十一歳）、下が中学三年生で、年が六つ離れています。初めは六つも離れていて、しかも男の子と女の子の兄妹だと、話す内容も違えばやる事も違うため、どうなんだろう…と思っていました。でも、そんな心配をしていたのは親の私たちだけで、とても兄妹仲が良いです。二人の共通の話題として、まず一番にスポーツがあります。お兄ちゃんは小学生から続けている『野球』、そして下の娘は中学から始めた『ソフトボール』。暇な時間があればキャッチボールやノックをしたり、バッティングセンターなどに行ったりして仲良く汗を流しています。スポーツがきっかけとなり共通の話題、楽しみがあるという事は、兄妹関係だけでなく友人関係や周囲との関りにも深く影響があるのではないかと思います。

昨今、働き方改革などもあり、部活などの制限、団体スポーツへの加入の減少等、様々な問題があります。野球はまだソフトボールより需要がありますが、ソフトボールは年々チーム数も減り、合同や廃部（休部）などになっています。団体スポーツ自体が不人気なのか、他のスポーツでも同様な悩みがあると聞きます。もちろん団体スポーツをしていると、親の協力は必要不可欠なものだと思います。子どもの予定に合わせたり、自分の仕事もあったりと大変な事もたくさんあると思います。でも、子どもと関わる事で、親である私たちの方が学ぶ事もたくさんあります。チームメイトを労る気持ち、感情を共有するという事、学校のクラスでは味わえないような経験を共有する事が出来るのがスポーツと関わる中でとても素晴らしい事だと思います。子育ては一生です。ですが、子どもと関わる時間は限られていると私は思います。限られた時間の中で少しでも多く子どもと関わる事が何よりも大切だと思います。

最近テレビなどで悲しいニュースをよく耳にします。そのニュースを聞く度に胸が痛くなります。自分の子どもであっても、こういう事が起きてしまうこの世の中、何か足りないとするならば、私はやはりコミュニケーション力だと思います。コミュニケーションは得意不得意があると思います。でも、不得意だからと言って顔を背けてしまえば何も始まりません。誰かに相談する一歩、周りにいる人たちはそのサインを見逃さない事、小さな事でも誰かが分かってくれるなら少しはこういった事件も少なくなるのではないでしょうか？

普段から色々な人と関わりを持ち、色々な人の話に耳を傾け、それを生活する上での糧にしていけたなら、子育ても、生活も楽しくポジティブに過ごせるのではないかと思います。こう言いながら出来ていることはまだまだ半分かも知れません。ただそういう事が出来たら良いなと言う私の願いが、子ども達にも伝わってくれたら嬉しいです。

教育の窓

校区の癒やしのウサギたち

恵那市立恵那北小学校
教頭　伊藤 博章

今年度の四月に本校に赴任した私は、前任の教頭からウサギについて次のように引き継いだ。「現在十四羽いるけど、全部メスのはずだから増えることはないと思います」と。それから二週間も経たないうちに、児童が土まみれになって死んでいるウサギの赤ちゃんを見つけて報告してくれたので、一緒に埋葬して合掌した。さらに、ウサギ小屋の中に新しく数羽の子ウサギが確認できるようになった。「メスばかりじゃなかったのか！」と愕然としたが、手をこまねいているうちに、約四十羽ほどに増えてしまった。「このままではいけない」と、恵那峡ワンダーランドの動物飼育係の方にお願いし、雌雄の判別をしてもらうと共に、ウサギ小屋をオス部屋とメス部屋に分離した。

また、里親を広く募集して十羽ほど里子に出すことができた。その努力が実り（？）九月現在は新しい子ウサギは増えておらず、オス八羽、メス十九羽の計二十七羽に落ち着いている。

そんな苦労もあるが、ウサギを飼っている学校は、現在では珍しいのではないだろうか。小動物とふれ合い、その世話をして命の誕生や死をみることは、児童にとって「命の尊さ」を学ぶ大切な場になると考える。それができる環境を活かして、全校としても命の教育の一環として扱っていけるようにしたい。

普段は、二年生がうさぎ当番を担当して、エサやりや掃除などの世話をしている。また二年生以外でも多くの児童が、自宅からエサとなる野菜をもってきたり、水を替えたりしており、ウサギたちとふれ合うことで癒やされている。

その癒やしの輪は校内だけに留まっていない。学校区にあるやまびこ子ども園の園児たちも、園外活動の際にウサギを見に立ち寄ることが多い。さらに、学校近隣の方々もウサギのエサとして、野菜や草を届けてくださるなど、地域全体で育てている感もある。恵那北小学校のウサギは、校区のみんなにとって親しみのある、癒やし

県立大垣桜高校
まんが研究部

マラソン大会

逆さ言葉

わるいにわとりとわにいるわ

（悪い鶏とワニ居るわ）

出題・堀 希実（羽島郡）

をくれる存在となっている。

最後に、本文を読まれて里親を希望される方がみえましたら、ぜひ恵那北小学校に一報ください。お待ちしております。

語り合いながら、一緒に体験する

高山市立宮中学校　教頭　杉山 正高

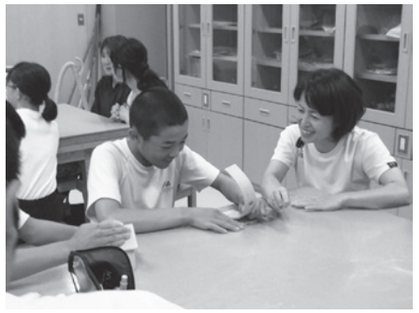
「最近は、あまり学校のことを話してくれないんですよね」「話しかけても、別に…ばっかりで」中学生になると、あまり学校での事は、子どもから保護者に話をすることも少なくなるかもしれません。しかし、いつの時代でも保護者は子どもの事が心配です。わが子が楽しく生き生きと学校生活を送っているのだろうか？勉強は大丈夫だろうか？保護者は常にわが子の事を考え、幸せを願っています。

宮中学校でも、親子間の事や子育てについて相談を受けることがあります。互いの立場に立って、話を聞くようにしていますが、子どもの立場からすると、「決めつけることが嫌だ」保護者の立場からすると、「全然、話を聞いてくれない」となることもあります。

互いに悩みを抱えながら毎日を過ごすことは辛いのですが、思春期の子どもにとっては少しずつ親心も分かるようになり、判断して行動することができるようになるものです。反発することは、自我の芽生えでもあり、独り立ちをしようとする心の表れで喜ばしいことだと思います。保護者と熱い思いがぶつかり合う関係は、その子の生きる力を育むものですが、最近は「なにもしたくない、ゲームが楽しい」という無気力で、自分一人で楽しむことを喜びとする子どもが増えているように思います。

これは、様々な要因が背景にあると思いますが、「結果だけが重要視されて、過程を褒めてもらえないこと」や「体験から、夢や希望をもつことの素晴らしさや大切さを実感する機会の減少」も一つの要因として捉えます。

宮中学校では、「ふるさと教育」に力を入れています。地域の人と関わりながらの協働活動や、ふるさと高山・一之宮のルーツを探る「ふるさと探訪」等を行い、一之宮愛や誇りを育んでいます。さらに、厚生労働省「目指せ、マイスタープロジェクト」を行い、飛騨の特色である、曲木を経験したりして、伝統的木工製作の素晴らしさを体験しています。



二年前からは、保護者と一緒に講座を体験するようにしました。この活動は、保護者との対話を増やし、将来の夢や希望、職業について体験を通して考える機会になっています。保護者からは、「一緒に体験しながら、ものづくりをしたことで、家に帰っても、子どもと将来についていろいろ話をすることができました。」と好感触の言葉をいただいています。

保護者と子どもが一緒になって、夢中になれる活動の重要性を強く感じます。

GK 見守るクルマの保険
ドライブレコーダー付き保険、でた！
立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上
GK 見守る

先生！ありがとう！

～保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ～

おまえ変わったナァ！

ハタチになる頃、市の成人式の実行委員長をしていた私に、かつての担任の先生が声をかけてくださいました。仲間と共にビデオレターを撮りに隣町の中学校に伺った際です。

「あ、自分のこと覚えてくれていたんだ…」

集中力が続かず、落ち着きのなかった私にとって、先生は『叱ってくる存在』。いつも敵対視して過ごして来たことに、申し訳ない気持ちになると同時に、うれしくて、なんだかホッとした瞬間でした。

学校は、毎年大勢の生徒・児童が入学し、そして卒業していきます。その中で、鏡島の先生方が、一人ひとりとしっかりと丁寧に向き合って下さっていることを、PTA活動への参加を通じて、あらためて知ることができています。自分が小・中学生だった頃も、きっと先生方や地域の大人の人たちは、同じように愛情をもって接してくれていたに違いありません。子どもたちにはまだ理解できない分、親の私から感謝したいと思います。先生ありがとう！

岐阜市立鏡島小学校（匿名）

information

■作品を募集しています。

イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキの裏面に描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所、学年と氏名を表面に記載してください。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな」の回答とともにお送りください。

宛先はいずれも　〒500−8816 岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。

採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行（7・9・11・1・3月）されます。年度初め（4～5月）と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います（1冊200円、5冊1,000円）が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

■1月号のお知らせ（予告）

特集=いじめから見えてくるもの／表紙=一之瀬小／学校のたからもの=板取小・席田小・田瀬小・東部中／わが家の宝物=下原小／リレーエッセイ／家庭教育応援団／みんな、いっしょに／保健室ノート=瑞穂南小／私の先生=養基小／子育て半生記=脇之島小／楽しい読み聞かせ=明郷小／親の背中=小熊小・城南中／1冊の本=川合小・北方中／わが家の約束=下米田小・明智中／子の思い=朝日小・岩野田小・大垣北中／親の願い=中津川南小・蘇原中／教育の窓=梅原小・東安中／先生！ありがとう！=博愛小／お試しクッキング／ふるさとの伝承=岐北中／きらり！キッズ！=黒川小／夢中!熱中!我らが部活=南ヶ丘中／私たちのPTA=萩原小

お試しクッキング　鶏肉の菜果焼き

岐阜県学校栄養士会

秋においしい「かぶ・りんご・柚子」を使った、季節を感じることができるメニューです。

菜果焼きとは、野菜と果物に鶏肉を漬けて焼いた料理のことです。野菜や果物に漬けてから焼くと、鶏肉が柔らかくなるだけでなく、甘味も増し、よりおいしくなります。

柚子は、酸味と香りを楽しむことができる柑橘類で、ビタミンCが豊富なので、風邪予防に効果的です。冬至に柚子風呂に入ると風邪予防になるといわれますが、料理にも柚子を取り入れてみてはいかがでしょうか。

材料

（材料4人分）

- 鶏もも肉……8切（200g）
- かぶ……中1/2（100g）
- りんご……1/4（50g）
- Ⓐ
  - 柚子果汁……大さじ2
  - 濃口醤油……小さじ2
  - 酒……小さじ2
  - 砂糖……小さじ2
  - みりん……小さじ1
- 油……少々
- レタス……適量

作り方

❶ かぶ、りんごはすりおろす。
❷ ❶にⒶを混ぜ入れ、合わせだれを作る。
❸ 鶏肉をビニール袋に入れ、❷の合わせだれを加えて鶏肉によくもみこみ、まんべんなく下味をつけて20分程度おく。
❹ フライパンに油を熱し、鶏肉がキツネ色になるまで両面焼く。
❺ 鶏肉に中まで火が通ったら、いったん取り出し、たれをフライパンで煮つめる。
❻ ❺の鶏肉を皿に盛り、たれをかけ、レタスを添える。

●栄養価（1人あたり）

エネルギー	133kcal
タンパク質	8.9g
脂質	7.4g
カルシウム	18mg
鉄	0.7mg
亜鉛	0.9mg
ビタミンA	26μg
ビタミンB_1	0.08mg
ビタミンB_2	0.11mg
ビタミンC	10mg
食物繊維	0.9g
食塩相当量	0.5g

美しい川 光る命
～カワゲラウォッチング～

大垣市の上石津地域に位置し、交通の利便性を生かしていくつもの工場が建てられている一方で、田畑が広がり、自然に恵まれた地域である牧田地区――その中央に位置しているのが牧田小学校です。自然に囲まれ、温かみのある木造建築の校舎が児童を明るく迎えています。

牧田小学校の大切な行事の一つが、四年生の「カワゲラウォッチング」です。児童は、『藤古川（牧田の川）や大垣市内の川に生きる生物に興味をもち、川にいる生物や水質を調べ、比べることを通して、川の環境によって生息する生物に違いがあることに気付き、藤古川の特徴から、川を自分たちがどう守っていくのかを仲間に伝えるとともに、ふるさと牧田に住む生物を大切にしようとする心を育てる。』という目標のもと、牧田地区の豊かな自然を体感し、その大切さを理解して、後世につないでいこうという考えを深めています。

カワゲラウォッチングは、毎年五月に大垣市生活環境部環境衛生課の協力のもと、藤古川で行っています。児童が川に入り、川底を足でガサガサした後に網をすくい上げると、多くの生物がおり、毎年きまって児童が感嘆の声をあげます。また、石の下や水底に網を持っていくと、カワゲラだけでなくサワガニなど多くの生物を捕まえることができ、喜んで「先生、こんなのが捕れたよ。」と笑顔で話します。さあ、捕れたら、調査開始！何が捕れたか確認をしていくと、カワゲラ、ヨコエビ、サワガニ、ヒラタカゲロウなど、きれいな水にすむ生き物がたくさんいます。

みんなで教室に戻って、捕れた生き物から藤古川の特徴を考えます。班ごとにまとめて交流していく中で、「サワガニはきれいな水にいる。カワゲラもきれいな水にいる。ヒラタカゲロウもきれいな水にいる。藤古川はきれいな水であることが分かる。」とふるさと牧田の川の美しさを改めて確かめ、そこでみんなで考えます。

「どうすればこの川をきれいに保つことができるのか。」

一人ひとりが自分にできることをたくさん考えます。「川にごみを捨てない」や「生き物は捕らず、命を守る」など…小さなことかもしれません。でも、川をきれいにし続けることで牧田を大切にしていきたいという思いを話す児童の顔は、希望に満ちています。

「川がきれい」＝「自然が豊か」⇓「だから牧田は素敵な所だ！」

「私たちが住む牧田は美しい環境の素晴らしい町」だと児童は胸を張ります。

そんな「自然が豊かな牧田」では、毎年六月の第一土曜日に「ホタル祭り」が行われ、多くの住民がきれいな川に集まってくるホタルの光を見ては、心をときめかせています。このホタルの光、そして、牧田地区を照らす明るい未来への光は、牧田地区のみんなで守ってきた光です。牧田小学校の児童もまた、この豊かな自然を守り、永久に光り続けて、牧田の豊かな自然を後世へとつなぐでしょう。

▲ホワイトボードにまとめたことを発表

▲この生き物はきれいな川にいるよ

▲ホタルの光が輝く牧田

▲ガサガサ！何か生き物はいるのかな

▲調査開始！この生き物は何かな

▲温かみのある木造建築が出迎える

全校児童六五三名の学校です。校区は、古くから陶磁器を地場産業とする町並みと、滝呂台の団地の二つの地区からなります。平成十九年一月に移転・竣工した校舎は、教室毎の玄関や、屋内遊具・らせん階段など、家庭的で親しみのある建物となっています。学校の教育目標「たくましく豊かに伸びる滝呂の子ども」の具現を目指し、「みんなちがってみんないい」の合い言葉のもと、四つの柱「まんぞく授業」・「いじめゼロ（大切な命）」・「さきがけあいさつ」・「じょうぶな体」を意識した学校生活を送っています。

じゃんけん滝呂城

滝呂小学校の旧校舎時代から続く伝統行事（児童会活動）です。滝呂小学校は縦割り班（滝っ子班）を組織し、掃除や昼休みの遊びなど、様々な活動を行っています。グループの仲を深めることと、あいさつを進んで行うことを目的として、六月に実施しています。

防御の列に立つ子にじゃんけんで勝つと次の列へと進めます。途中で負けると、一列前に戻ってじゃんけんをやり直します。防御を四列突破すると、見事滝呂城に到着！シールを一枚獲得できます。グループで獲得したシールの合計点数で順位を決めます。ただじゃんけんをするだけでなく、お互い「お願いします。」、「ありがとうございました。」とあいさつを交わすことも大切にしています。滝っ子班の団結力が高まり、全校が笑顔いっぱいで取り組むことができた活動となりました。

滝呂城の城主は校長先生です。
滝呂城到着を目指して
じゃんけんを勝ち進みます

滝呂城目指して
じゃんけんを
勝ち進めます

班ごとに円陣を
組んで声をかけます

笠原川ガサガサ探検

足でガサガサしてタモ網に生き物が入っているかどうか探します

土岐川観察館の方に捕まえた生き物の名前を教えてもらいます

二年生は生活科で、校区を流れる笠原川の生き物を見つける活動を行っています。子どもたちの多くは初めての体験です。講師の土岐川観察館の先生から捕まえ方を教わり、笠原川へ入りました。草のかげや石の下などに隠れている生き物を足でガサガサしておびき出してタモ網で捕まえます。たくさんの生き物を捕まえることができて子どもたちは大喜びでした。

川から出た後は、捕まえた生き物の観察を行いました。笠原川には様々な生き物がいることがわかり、子どもたちは驚きと共に、身近な川に豊かな生態があることの素晴らしさを感じることができました。

滝呂の名人に学ぶ

三年生は総合的な学習で、校区の特色について調べています。滝呂は古くから窯業が盛んで、現在も窯元が残っています。そんな滝呂の伝統産業を知るため、窯元へ見学に行きました。普段使っている陶磁器ができる工程を実際に見たり体験したりしました。学習する中で、窯元により製造している物や工程にも違いがあることがわかり、学習の最後には、お世話になった名人さんを学校に招いて発表会を行い交流しました。滝呂の名人に学ぶ中で、校区の自慢を知り、その魅力を実感することができました。

窯元見学は新しい発見でいっぱい！
普段できない貴重な体験ができました

各務原市立中央中学校

夢中！熱中！我らが部活

陸上競技部

僕たち陸上競技部は、男女合わせて62名で活動しています。個人では中体連東海大会出場、団体では中体連市大会男女総合優勝を目標にしています。練習内容は、平日は基礎体力づくり、土日は専門的な練習をしています。また、日常生活も正しくするために「自ら行動できる人」「あたり前のことをあたり前にできる人」になることを重視して、生活しています。男子は6年連続、女子は2年連続で市大会総合優勝していて、部員全員が高い志で一生懸命練習しています。

女子ハンドボール部

私たちは、挨拶や声を出すことを大切にしています。コーチや先生、保護者の方に自分から大きな声で挨拶しています。また、練習では、声を出して盛り上げたり、仲間同士で声をかけ合ったりして、明るい雰囲気で練習することを大切にしています。試合では、いつも私たちを支えてくださる多くの方に恩返しができるように、精一杯戦い抜いていきたいです。

男子ハンドボール部

僕たちは、夏の中体連に向けて毎日の練習を大切にしています。3年生は基礎練習や体幹トレーニングを主に行っています。また、試合中に全員が声を出して、指示を出し合えるように、日々の練習で声出しを大事にし、お互いの信頼関係を築いています。シュートをはずしても仲間が落ち込まないようにポジティブな声かけをしています。部員一人ひとりを大事にし、課題と向き合いながら日々学び成長しています。目標に向けて頑張ります。

サッカー部

僕たちサッカー部の目標は、先輩たちの記録を抜き、東海大会に出場することです。今は2年生6名、1年生15名の21名で活動しています。平日は、基礎練習、1対1などを練習し、週末は他校やクラブチームと試合をしています。また、学校生活では、挨拶することを心がけています。今年は2年生の部員が少ないですが、1年生と力を合わせて頑張っていきます。

女子バドミントン部

私たち女子バドミントン部は「県大会出場」を目標に練習しています。外では、10分間走や往復などの走り込み。中では、基礎打ちや試合、ノックなどをしています。また、コーチや先生、保護者へ大きな声で挨拶や返事をすることを大切にしています。去年の結果に少しでも近づけるように部員一人ひとりが向上心をもち、練習を頑張っています。

男子バドミントン部

男子バドミントン部は、県大会出場の目標達成のために毎日の走り込みや基礎打ちをしています。その中で、一人ひとりが1回1回の練習で目標をもち、達成するためにコーチや先生、先輩にアドバイスを求めたり、練習に付き合ってもらったりしています。土日の練習では、大会に向けての基礎打ちのメニューを考え、多くのシャトルが返せるように動きの練習や実戦形式の練習をして、大会で良い成績が残せるよう努力しています。また、礼儀を大切にしており、日頃の挨拶やお礼をしっかり全員ができるようにしています。

卓球部

私たちは男女合わせて60名で活動しています。卓球部の目標は、中体連で地区大会へ出場することです。昨年の先輩方の悔しさをバネに、日々練習に励んでいます。朝練などの練習を改正し、基礎練習、体力づくりをし、体育館練習では、試合形式で行い自分の課題を見つけ、改善していけるような練習をし、試合に備えています。また、挨拶することを日常からこだわっています。

女子ホッケー部

私たち女子ホッケー部は、全国大会出場を目標にして活動しています。目標を達成するために、日頃から部員一人ひとりが礼儀・感謝を大切にしています。また、練習前のアップからしっかり体を動かし、声を出して、真剣に取り組むようにしています。体力をつけるためのトレーニングも行っています。練習中に見つかった課題を直したり、先輩が後輩に教える姿もあったりして、自分たちでより良いチームをつくっています。まだ、チームの課題はたくさんあるけど、本番までに改善し、本番で今までの力をチーム全員で出し切りたいです。

男子ホッケー部

僕たち男子ホッケー部は3年生3名、2年生9名、1年生2名で活動しています。目標は、市大会、東海大会優勝、全国大会での上位入賞です。そのために僕たちは礼儀、感謝を大切にしています。一回一回の練習を大切にして、少しでもレベルアップすることを目指しています。昨年は市大会では優勝したものの、東海大会で負けてしまい全国大会に行くことができませんでした。その悔しさをバネに、今年は全国大会に行って結果を残します。

野球部

野球部では、0.2秒反応、グラウンド内ダッシュを大切に日頃の練習に取り組み、挨拶や掃除などの日常生活にも力を入れています。先輩たちが達成できなかった地区大会優勝をし、県大会で一勝できるように頑張ります。

女子バスケットボール部

私たち女子バスケットボール部では、県大会ベスト4に入るために、毎日練習をコツコツ頑張っています。目標達成のために、全員で声を出しながら練習すること、部活の時だけでなく、日常を大切にすることを心がけています。誰が試合に出ても相手と戦えるように、練習から仲間と考えながら練習しています。また、1回1回の練習を大切にし、目標に向けて頑張ります。

男子バスケットボール部

僕たち男子バスケットボール部は、13人で活動しています。目標は「県大会出場」です。そのために「全員で」をモットーに活動しています。毎回の練習を全員で行うことや練習の質を高めるために、全員で素早く動くことにこだわっています。特に体力的にきつい練習や反復練習では、全員が諦めることなく声を出しています。全員の力で、県大会出場を目指します。

剣道部

僕たち剣道部は、東海大会出場を目標に日々の練習を頑張っています。先生やコーチの指導のもと、剣道の練習だけでなく、挨拶や礼儀も大切にし、先生や仲間と信頼関係を築いて過ごしています。基本技などの練習や団体戦での実戦練習を行い、一つひとつの練習に力を入れています。

女子バレーボール部

私たち女子バレーボール部は、3年生9名、2年生2名、1年生6名の17名で活動しています。中体連県大会優勝を最終目標として「絆・笑顔」をキーワードに日々の練習を頑張っています。いつも支えてくださっている方々へ感謝の気持ちを込めて、全員が全力でプレーします。

男子バレーボール部

私たち男子バレーボール部は、3年生6名、2年生1名、1年生5名で活動しています。主な活動は、平日にスパイクなどの基礎練習、休日は、チーム練習をしてチーム力を高めています。男子バレーボール部のモットーは、「ボールを落とさず、最後まで諦めず、攻める姿勢」です。団体競技なので仲間と協力して頑張っています。

水泳部

僕たち水泳部は、中体連市大会優勝、県大会個人出場を目標に18人で活動しています。この目標を達成するために限られた練習時間を大切にしています。練習は大変なことがいくつもありますが、仲間と声をかけ合ったり、アドバイスをしあったりして練習しています。

女子ソフトテニス部

私たちの目標は、中体連市大会団体・個人優勝です。そのために平日の練習では、サーブ、レシーブ、ボレーの基礎練習を中心に行っています。また、土日の練習ではゲーム形式で前衛のポジションや動き方、後衛はストローク練習を頑張っています。部員同士で声をかけ合い、お互いの意見を聞き合いながらメニューを考えて取り組んでいます。

男子ソフトテニス部

僕たち男子ソフトテニス部は、団体戦地区大会出場、個人県大会出場を目標としています。日々の練習では、声を出すことを大切にして真剣に取り組んでいます。練習は、ストローク練習やボレー練習など基本的な練習を主に取り組んでいます。ゲーム形式でペアと組んでの実践に備える練習もしています。また、学年関係なく合同で練習をし、交流も行っています。

パソコン部

私たちパソコン部は、P検合格を目指して「正確無比」をモットーに部員同士で協力し合い、一人ひとりのスキルを高めて活動しています。先輩たちが教えてくれることで、よい環境で取り組めています。部員全員が合格できるように、日々努力していきます。

美術部

私たち美術部は、好きな表現の追求や、基礎力をつけつつ、楽しみながら活動しています。活動については、昨年度までは自由時間を多くとっていましたが、今年から、デッサンや課題制作、自由制作を中心に行うことにしました。それに加え、行事での旗や黒板アートなども、特別な活動として行っていきたいと思います。今年から活動が一段と多くなるので、メリハリをつけて最高の作品をつくっていきます。

吹奏楽部

私たちは「相思奏愛」をモットーに65名で活動しています。夏のコンクール、アンサンブルコンテストで金賞をとることを目標に日々練習を頑張っています。また、定期演奏会や地域のイベントでの演奏でも劇やダンスを披露するなど、力を入れています。生活・行動面では、挨拶を大きな声ではっきりとすることや5分前行動をするなど、当たり前のことが当たり前にできるようにしています。

私たちのPTA

岐阜市立島小学校PTA

運動会 PTA 競技

今年度は“バルーン送りリレー”

“おにぎりの日”に大活躍！

初代おにぎりマン（中）と新おにぎりマン（左）、のり子さん（右）

トイレピカピカ大作戦

ピンクビブスがまぶしいお父さん集団！

父親協力委員会 通称“父協”

学校紹介

岐阜市立島小学校は、岐阜市の西部に位置し、「島」という地名の示すように校区の東端から南端に沿って流れる長良川、西を流れる伊自良川に挟まれたかつての輪中地域です。

水害との戦いの跡を示す史蹟なども随所に見られるなか、ふたつの川の恩恵を受けた豊かな土地には、広く枝豆やほうれん草などが栽培されています。

創立一四〇年以上の歴史をもち、校庭にある二本の大きな銀杏の木は、子どもたちから「大銀杏（おおいちょう）」、「小銀杏（こいちょう）」と呼ばれ、「大銀杏」は、学校ができた一四〇年前から立っており、校歌の歌詞にも出てくる島小学校のシンボルとなっています。

このような歴史と自然につつまれ全校児童数七二九名が仲良く元気に活動しています。

PTA紹介

今年度のPTAスローガンは、「子どもと共に歩む」です。PTA活動での出会いやふれあいは、子どもたちだけでなく私たち大人もたくさんの学びや気付きがあり、子どもたちと共に成長していきたいと思っています。この様に各委員会においても人とのつながりを大切にした活動を行っています。

PTA活動について

地域生活委員会

「大切にしよう地域とのつながりみんなの笑顔」をスローガンに校区内を七つのブロックに分け各地域より選出された委員で構成されています。

登校時の見守りや安全指導といった校内活動だけでなく自治会が行う資源分別回収の協力等、地域とのつながりも強く、子どもたちと地域をつなぐ役割を担っています。

家庭教育委員会

「想い合い寄り添い深まる家族の絆」をスローガンに、家庭教育学級を開設し、心肺蘇生法講習会、人権ビデオ鑑賞会、給食試食会の実施や、講師を招いての講習会の開催等PTA会員の教養を高める活動を行っています。

また、子どもたちの食育として開催している「おにぎりの日」では、命の大切さや食べ物のありがたさ、毎日食事を作ってくれる家の人への感謝の気持ちを育てています。親子でおにぎりを作ることで親子のコミュニケーションの機会を作り、家族の絆を深めています。

広報委員会

「伝えようみんなの笑顔！つなげよう三つの環」をスローガンに、広報紙「三つの環」を年四回発行しています。子どもたちの学校生活やPTA活動を保護者だけでなく地域の方々にも発信し、学校と保護者そして地域をつなぐ役割を担っています。

学年委員会

「あいさつはみんなの心動かすよ」をスローガンに各学級の学級長と副学級長から構成され、月に一度、子どもたちの登校時に校門で挨拶運動を実施、十月には中学校との合同挨拶運動も開催しています。

また、参観日を利用した親子交流会を各学年ごとに企画し、親子の親睦を深める活動を行っています。

父親協力委員会

父親も「子どものために一肌脱いで、楽しいふれあいをしようではないか」と発足した、通称「父協」により親子で参加できる様々な活動を企画しています。

六月に奉仕活動として学校のトイレ掃除を行う「トイレピカピカ大作戦」。十月に防災学習として学校体育館にて一晩泊まり、避難所生活体験を行う「学校にとまろう」。二月に親子での体力づくりとしてグループ対抗でのマラソン競技を行う「父協カップマラソン」を開催し、各イベントとも父親ならではのひとひねり効いた内容で、子どもたちも毎回楽しみにしています。

また、運動会では当日の会場整備や交通整理、PTA競技の運営等、縁の下の力持ちとして活躍しています。

おわりに

今回紹介した各委員会の活動以外にも、地域全体で行う防災訓練や文化祭への協力等、地域の一員としてPTAも深く関わっています。

これからも、子どもたちを中心に人と人とのつながりを大切にし、島小校区全体が大きな輪（環）となるようなPTA活動を目指していきます。

小中合同あいさつ運動

広報紙“三つの環”の表紙を飾る島小のシンボル大銀杏

学年委員による親子交流会

避難所生活体験“学校にとまろう”

体育館にダンボールハウスを作ってお泊り

心肺蘇生法講習会

がんばる子らの

汗と笑顔と眼差しと

高山市立国府小学校

「できた」、「分かった」が実感できる授業づくり

算数の学習を校内研究の中心とし、自らの高まりを実感することや、主体的に学びに向かう児童の育成を目指しています。

毎朝のハイタッチあいさつ

生活委員会だけでなく、自ら進んであいさつ運動に協力する児童もいて、活気のある朝を全校で迎えています。

「ふるさと国府」を学ぶ学習①

総合的な学習の時間等では、各学年に応じて、体験、見学、聞き取り活動などを行っています。体験することで実感を伴った追究を目指しています。

「ふるさと国府」を学ぶ学習②

地域の祭りと授業日が重なった日があったので、学校へ立ち寄っていただき、全校で鑑賞しました。地域の伝統を感じることができました。

異年齢集団の活動「たてわり班遊び」

6年生が下学年をリードしながら遊びを盛り上げています。6年生が最高学年としての自覚を高める一つの機会となっています。

学校保護者による整備作業（PTA活動）

PTA整備委員会が計画し、作業が行われました。多くの保護者の方の協力のもと、子どもたちのより安心・安全な学校生活に向けて熱心に活動していただきました。